

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 青少年国際交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-ア		
	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度			
事業内容	青少年(町内在住中学生)を海外へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察学習、ホームステイ、現地の学校への体験入学を実施することで、外国に住む県人等と交流を深め、移民について学び、国際化時代に対応しうる青少年の育成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	4,520	3,150	4,456	4,110	4,119
	(b) 予算現額	4,261	3,150	4,456	4,110	4,841	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 259	0	0	0	722	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	4,261	3,150	4,456	4,110	4,841	
	B. 執行済額	4,055	3,150	4,456	4,110	4,841	
	うち交付金充当額	3,244	2,520	3,564	3,288	3,872	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	交流事業派遣生徒数:10名	目標	(10名)	(12名)	(10名)	(10名)	
		実績	10名	12名	10名	10名	
	研修後報告会の開催	目標	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	1回	1回	3回	1回	
達成状況説明	本研修は10日間の日程でカナダで実施した。研修生である中学生10名は3日間のホームステイを体験しながら3日間のモデルスクールへの体験入学に参加し、県人会との交流も実施できた。帰国後は研修報告会を開催した。また、事前研修から事後研修にかけて県民の移民者の歴史を学び、学んだ事を事後報告会を通して多くの方へ周知することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%)	()
	実績				80%	92%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	国際交流に参加した生徒と保護者へアンケートを実施。英検1・2級の受験を希望したり、海外に興味をもったとの回答が80%以上に達している。「コミュニケーションを取って伝える子がでたそうで、見て体験したことをたくさん発信してほしい。」「普段の学校生活の中では学べないことを学ぶ機会を与えてくれた」「人のつながりからも、学ぶことがありよかった」など、今後も南風原町に貢献したいとの意見もあった。					

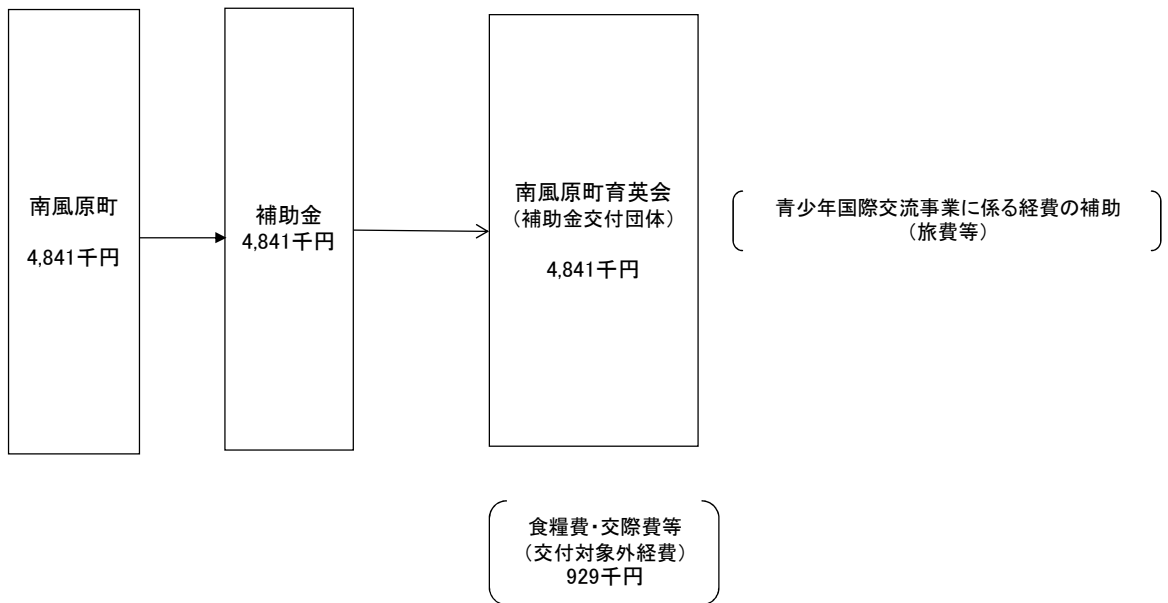
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣前に事前に現地と日程等を調整していたが、現地に行ってから相違があったことがあった。 ・ホームステイを受け入れてくれるホストファミリーの数が少なく、ホームステイの実施に係る調整に時間を要した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県人会との交流・情報交換を密にして、情報の相違がないようにする。 ・ホストファミリーの選定について、県人会と連絡を密にして生徒の受け入れるホストファミリーを調整する。

今後の取り組み方針

ホストファミリーの選定について、事前にカナダ県人会との連絡をメールや電話、facetimeなど画面通話を利用して意思の疎通を図る。また、県人会以外の斡旋業者などが可能かどうか検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,770	4,841	3,872	969	929



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町補助金等交付規則に基づき南風原町育英会に対して支出している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業に必要な旅費、現地で必要な経費、謝礼金等であり、不用額も無いことから適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。経済的負担を緩和する事で経済的な理由で参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 小学校英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	小学生のうちから英会話に触れさせ、英会話や英語圏の文化について興味を持たせるため、小学校に英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
	(b) 予算現額	7,200	7,200	7,184	7,169	7,200	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲16	▲31	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,200	7,200	7,184	7,169	7,200	
	B. 執行済額	7,050	7,200	7,165	7,021	7,131	
	うち交付金充当額	5,640	5,760	5,732	5,616	5,704	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.9%	100.0%	99.7%	97.9%	99.0%	
予算の状況の説明	町立小学校4校へ1名づつ配置し、年度当初から4人を配置することができたが、目的外業務をした日があり、執行率は99.0%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	小学校英語指導助手配置数:4人	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	4人	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思ったか(80%以上)を含め、児童へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)
	実績				77.10%	78.00%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	3月に4小学校の児童に対しランダムでアンケート調査を行った。その結果、78.0%と目標まで2.0%足りない結果となり、目標達成には至らなかった。						

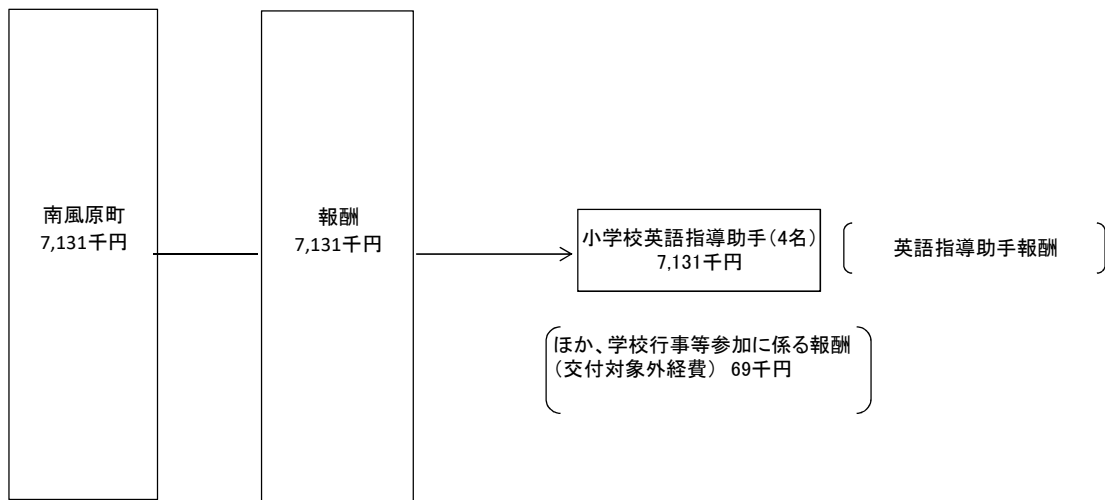
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	目標に届かなかった原因として、児童の英語を使うこと(会話や読み書き等)に対する苦手意識が考えられる。外国に対するの興味を持つ児童は多かったが、英語を使うことに対するの苦手意識から外国に対するの興味を持たない児童も見られた。	英語を使うことに対するの苦手意識を持つ児童を減らしていくために、あいさつや簡単な日常会話を英語で行うなど、普段の生活から英会話に触れさせたり、授業でもゲーム形式などで児童が英語に苦手意識を持たないように楽しく学べる環境作りに努めていく。

今後の取り組み方針

引き続き町内の小学校4校全てに英語指導助手を配置し、英語に対する苦手意識を持たせないように日常から英語に触れさせたり、ゲーム形式などで児童が英語を楽しく学べるように授業を工夫していき、外国に対する興味を持つ児童の人数を増やしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,200	7,131	5,704	1,427	69



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手の選定は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③ 学力調査等事業		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課				沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	個々の学力の把握及び個々の実態に即した指導を実施し、児童生徒のさらなる学力向上につなげるため、町立の全学校(小学校4校、中学校2校)で学力調査を実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額		4,004	3,433	4,230	4,451	4,530
		(b) 予算現額		4,004	3,172	4,230	4,451	4,530
		(c) 増減額(b-a)		0	▲ 261	0	0	0
		(d) 繰越額		-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)		4,004	3,172	4,230	4,451	4,530
		B. 執行済額		3,722	3,171	3,929	4,127	4,235
		うち交付金充当額		2,977	2,536	3,143	3,301	3,387
		次年度繰越額		0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)		93.0%	100.0%	92.9%	92.7%	93.5%
予算の状況の説明		町内全ての小中学校(小学校4校、中学校2校)において学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	学力調査等の実施 小学校4校中4校 (国語・算数・5年生理科) 中学校2校中2校 (国語・数学・理科・社会・英語)		目標 (小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)		
			実績 小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校		
			目標 ()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査を、目標の小学校4校中4校、中学校2校中2校で実施できた。 中3学力調査を目標の中学校2校中2校で実施できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 小学校:13科目/13科目 中学校:1科目以上/10科目		目標 ()	(小学校:全科目 中学校:3科目以上)	(小学校:全科目 中学校:3科目以上)	(小学校:全科目 中学校:1科目以上)	()	
			実績	小学校:12科目 中学校:2科目	小学校:12科目 中学校:0科目	小学校:12科目 中学校:2科目		
	県学力到達度調査の平均正答率が県平均以上の科目数 小学校:全科目/7科目 中学校:全科目/6科目		目標 ()	()	(小学校:全科目 中学校:全科目)	(小学校:全科目 中学校:全科目)	()	
			実績		小学校:6科目 中学校:全科目	小学校:6科目 中学校:全科目		
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の実施により、個々の学力を把握することができ、児童生徒へきめ細やかな指導ができた。 【小学校(13教科)】目標値を達成した科目:12教科(前年12教科)。全国平均を上回った科目:9教科(前年11教科)。 【中学校(10教科)】目標値を達成した科目:2教科(前年0教科)。全国平均を上回った科目:0教科(前年0教科)。 県学力到達度調査の平均正答率は小学校・中学校共に全科目を目標にしていたところ、小学校4年の算数のみ目標に届かなかったが、それ以外の教科においては県平均を上回った。中学校は全ての科目が県平均を上回った。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・小学校の標準学力調査は、国語・算数が全学年で目標値を上回ったが、昨年度と同様に5年生理科が目標値を下回った。5年生の理科では、特に「生命・地球」の領域で「植物の花のつくりと美」での内容の正答率が目標値を大幅に下回る結果となった。</p> <p>・中学校の標準学力調査は、1年の国語と算数で目標値を上回ったが、それ以外の教科では目標値に届かなかった。特に2学年においては全教科で大きく目標値を下回る結果となった。</p>	<p>・小学校においては、国語・算数は目標値を上回っているため、引き続き学力を向上に務める。理科については、自然界における変化がイメージできず問題の内容を理解できていない課題等があったため、写真や動画を使ってイメージできるよう、授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>・中学校においては、1年の国語と算数で目標値を上回ったが、全体的に基本的事項の理解力が不足しており、基礎基本の定着を図る取り組みの他、思考力の育成に係る問題に慣れさせる必要がある。</p>

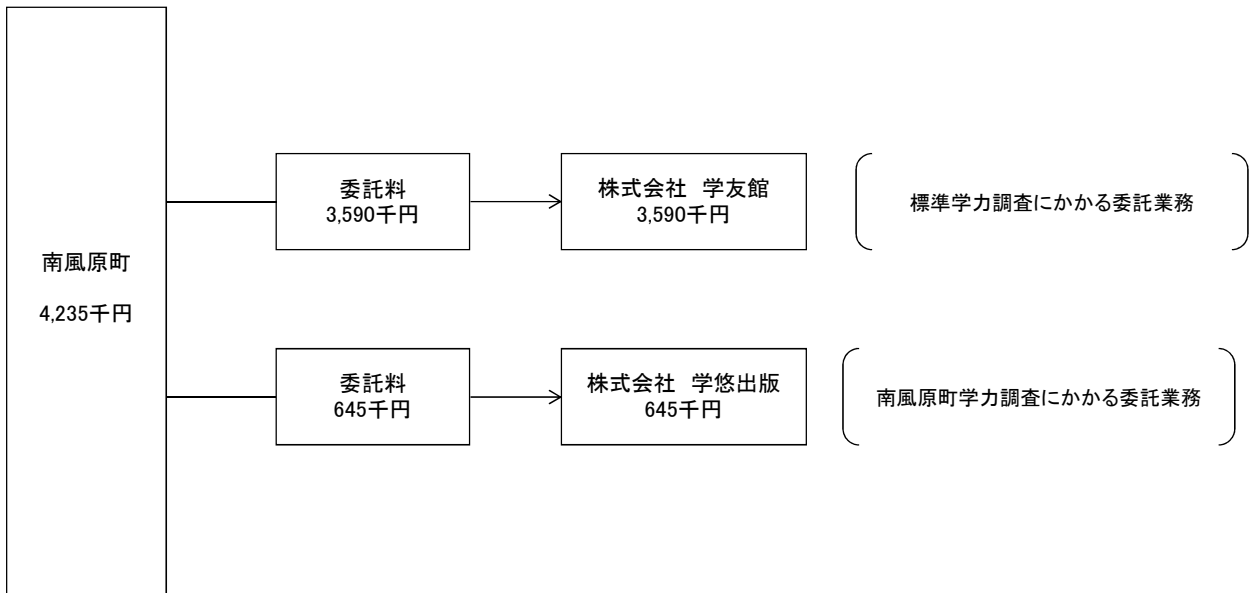
今後の取り組み方針

・小学校においては、全体的に「確かな学力」の取組の成果が出てきているので、今後も維持できるよう努める。特に、各学校の研修会により教師による授業改善を図るとともに、正答率の低い問題の分析を行い類似問題等の反復練習を行うことで基礎基本の定着を図る。また、授業の進捗と連動して宿題の量を課すことにより内容の定着を図っていく。また、理科においては、自然現象などを具体的にイメージできるよう写真や動画を使った授業改善を図る。

・中学校においては、基本的事項の理解力の向上に向け読解力の強化に取り組むとともに、補習指導や家庭学習において類似問題等の反復練習により基礎基本の定着を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

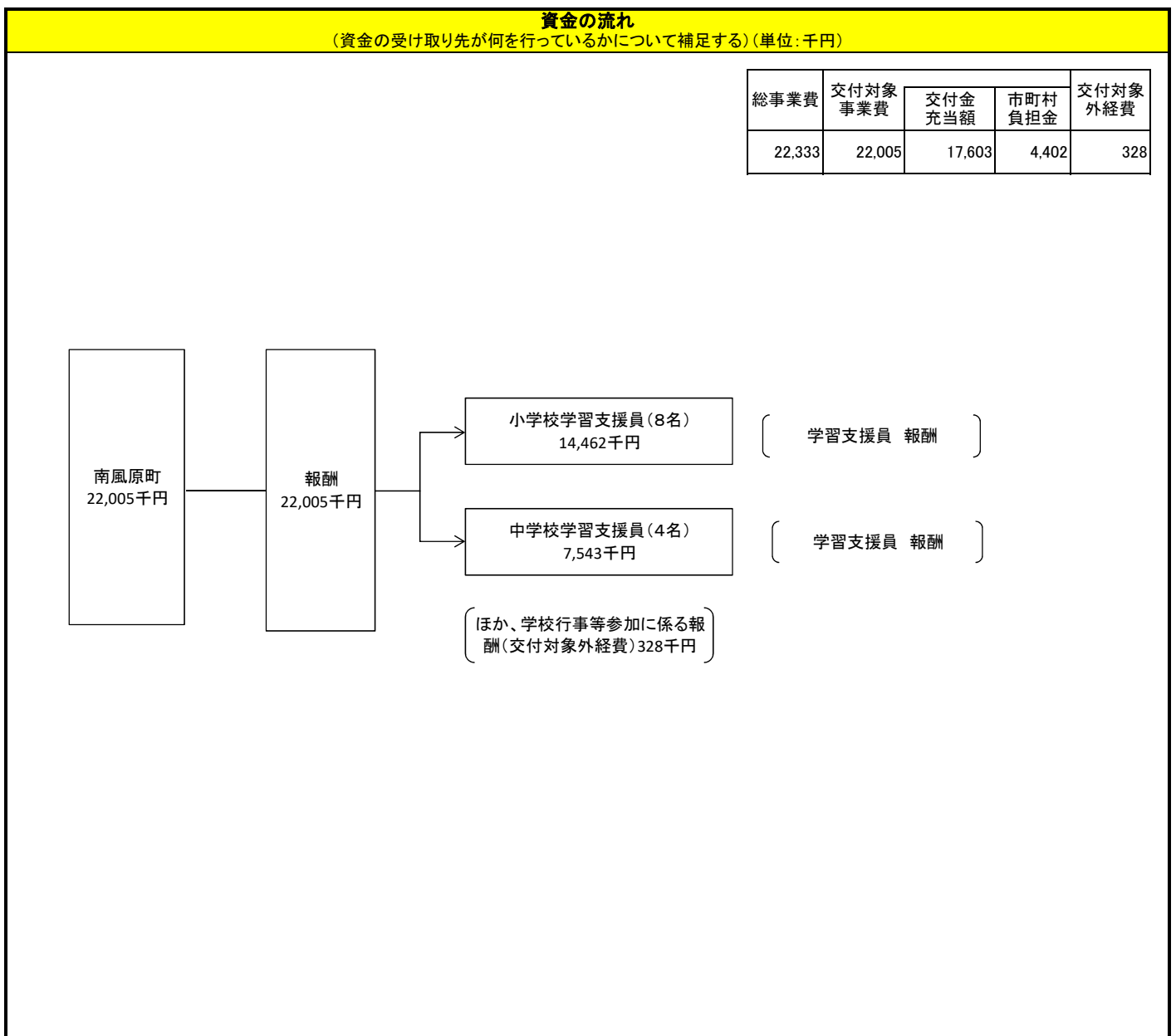
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,235	4,235	3,387	848	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定方法は、全国で採用している市町村が多く、学力の比較がしやすい調査を実施している業者を選定し、随意契約とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、学力調査委託料として目的に即し、受験者数に応じ支出しており適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課			事業実施(予定)年度	確かな学力を身につける教育の推進	
		平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)			
事業内容	通常の授業ではついていけない児童生徒の学力向上に努めるため、小・中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	26,880	26,880	24,960	24,960	23,040
		(b) 予算現額	28,480	28,000	23,905	22,528	23,040
		(c) 増減額(b-a)	1,600	1,120	▲ 1,055	▲ 2,432	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		28,480	28,000	23,905	22,528	23,040
	B. 執行済額		27,771	27,863	23,879	22,258	22,005
	うち交付金充当額		22,216	22,290	19,103	17,806	17,603
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.5%	99.5%	99.9%	98.8%	95.5%
予算の状況の説明		学習支援員は、町立小学校4校および町立中学校2校へ2名ずつ配置している。年度当初から12人を配置することができたが、勤務日数などの理由により、執行率は95.5%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・学習支援員配置数 小学校:8人、中学校:4人	目標	(小学校8人・中学校6人)	(小学校9人・中学校4人)	(小学校8人・中学校4人)	(小学校8人・中学校4人)	
		実績	小学校9人・中学校6人	小学校9人・中学校4人	小学校8人・中学校4人	小学校8人・中学校4人	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	小学校学習支援員は4小学校に2人ずつの合計8人を配置し、中学校学習支援員は各中学校に2人ずつの合計4人を配置することにより、予定していた人数の学習支援員を各小中学校へ配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		目標	()	()	小学校:全科目 中学校:2科目以上	小学校:全科目 中学校:1科目以上	()
	・標準学力調査の平均正答率が目標値以上の科目数 小学校:4科目/4科目 中学校:1科目以上/8科目	実績			小学校:全科目 中学校:0科目	小学校:全科目 中学校:1科目	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は標準学力調査の平均正答率が目標値以上となることを目標とした。 小学校については、全科目が平均正答率の目標値以上となり、目標を達成した。 中学校についても、平均正答率が目標値以上の科目は1科目で、目標を達成した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、全科目で平均正答率が目標値を上回っており、学習支援員による教材研究やきめ細かな指導の成果により、よりよい授業作りができた。 ・中学校では、8科目中1科目以上を目標としており、1科目が目標値を上回り、目標を達成することができた。今後は残りの科目でも目標値を上回るように、担当教諭と連携を図り授業におけるサポート体制の強化や教材研究・教材作成を行い、学力向上に向けて取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、今後も全科目目標を達成できるよう、授業内容の工夫・改善を担当教諭と協力して行っていき、学力向上に努めていく。 ・中学校においては、目標を達成する科目を増やしていくために、基礎学力の向上や、苦手な科目についての集中的な学習支援など、担当教諭と連携を図り、きめ細かな指導を行っていく。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力の向上および苦手科目の克服に向け、担当教諭と連携を密にしなが、きめ細かな指導に取り組んでいく。また、よりよい授業作りのために事前の教材研究や作成を積極的に行っていく。 		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	通常学級で一斉指導についていけない発達障害等のある子どもに対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	78,379	74,267	62,080	68,741	68,466
	(b) 予算現額	78,379	57,606	51,612	59,465	51,585	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 16,661	▲ 10,468	▲ 9,276	▲ 16,881	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	78,379	57,606	51,612	59,465	51,585	
	B. 執行済額	58,991	55,794	48,822	57,239	48,572	
	うち交付金充当額	47,192	44,635	39,057	45,791	38,857	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	75.3%	96.9%	94.6%	96.3%	94.2%	
予算の状況の説明	全校への特別支援教育支援員配置を行ったが、中途退職・中途採用があったため執行率は94.2%となった。予定していた支援員の配置ができず欠員が生じた期間があったことから、3月補正等において16,881千円の減額を行った。また、不用額3,013千円については、計画どおり支援員を配置することができなかったことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特別支援教育支援員配置数 幼稚園:19人、小学校:26人、中学校:5人	目標	幼稚園10名・小学校35名・中学校6名	幼稚園10名・小学校29名・中学校6名	幼稚園20名・小学校32名・中学校5名	幼稚園19名・小学校26名・中学校5名	
		実績	幼稚園9名・小学校34名・中学校6名	幼稚園15名・小学校30名・中学校5名	幼稚園20名・小学校30名・中学校5名	幼稚園19名・小学校23名・中学校5名	
			目標	()	()	()	()
		実績					
達成状況説明	小学校においては、特別支援教育支援員の応募者が足りなかったことから目標配置数に3名届かなかった。また幼稚園においては、年度当初は目標数を配置できなかったものの、年度途中で採用することができ目標配置数を達成することができた。全体的には、目標には届かなかったが、きめ細やかな支援をすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度 80%以上	目標	()	(80%)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		86.3%	93.8%	87.5%	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	特別支援教育支援員の対応への満足度については、対象児童となる保護者へのアンケートを実施し、56名からの回答を集計した結果、満足度87.5%であり、目標を達成した。						

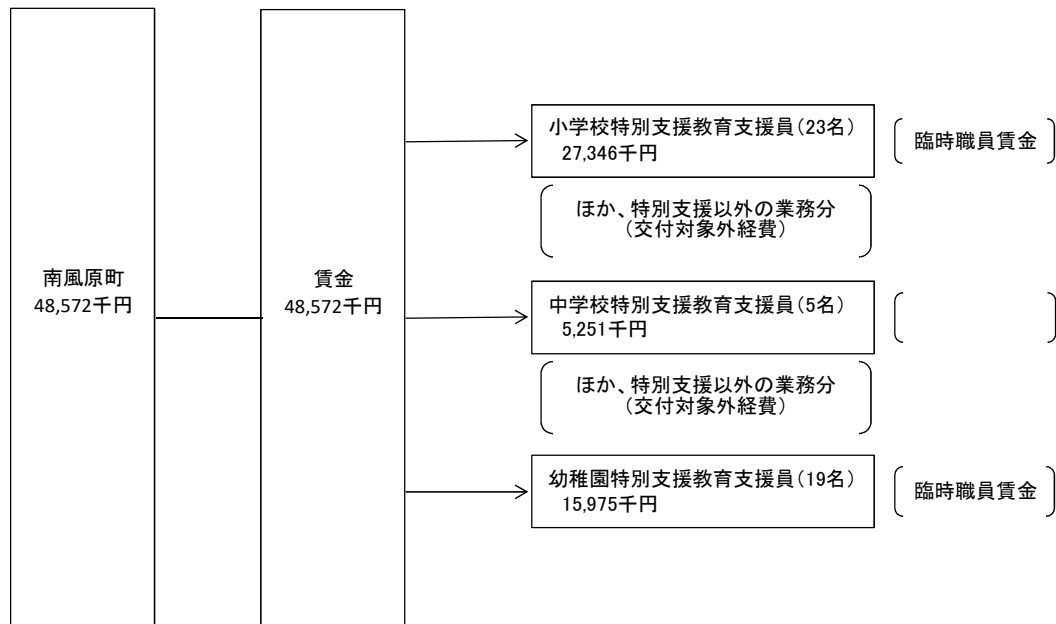
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員によって対応方法に違いがあり、その点で保護者の満足度の差があったと考えられる。しかしながら、年度の初めに特別支援教育支援員の研修を実施したことで、児童生徒への声かけなど丁寧に対応していることが保護者の満足に繋がっていた成果もあった。 ・特別支援教育支援員が、担任や特別支援コーディネーターと連携が取れず、トラブルが発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員間で対応に違いがあり、保護者の満足度に影響があったため、今後も支援員の資質向上に務める必要がある。 ・職員間の連携の強化に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

- ・年度当初と夏休み期間中に、幼小中合同で研修を開催し、特別支援教育支援員の質の向上を図る。
- ・特別支援相談員と教職員が、学校現場で情報を収集し、効率よい特別支援教育支援員の配置に努める。
- ・特別支援相談員と教職員が、綿密に連携を図るよう改善に取り組むとともに、学校全体でも情報共有を行い、きめ細かな対応に努めるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,798	48,572	38,857	9,715	1,226



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の選定は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。(各学校に必要な配置を行っており、不用額は予算規模の5%以内であることから適正な規模であった)
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途が事業目的に即しているかについては「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 学校ICT推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	教員のICT機器の習熟や授業での効果的な活用、及び学校教育の質を確保するため、ICT支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	54,074	22,713	46,825	13,307	6,720
	(b) 予算現額	56,653	21,170	43,534	13,307	6,720	
	(c) 増減額(b-a)	2,579	▲1,543	▲3,291	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	56,653	21,170	43,534	13,307	6,720	
	B. 執行済額	56,477	20,498	43,513	13,306	6,715	
	うち交付金充当額	45,181	16,398	34,810	10,644	5,371	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.7%	96.8%	100.0%	100.0%	99.9%	
予算の状況の説明	ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小・中学校に配置した。また、執行率は99.9%だが、令和元年度に計画していた事業内容はすべて実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟	目標	()	()	(教員のICT機器の習熟)	(教員のICT機器の習熟)	
		実績			教員のICT機器の習熟度向上	教員のICT機器の習熟度向上	
	ICT支援員配置(1名)	目標	(3名)	(2名)	(2名)	(1名)	
		実績	3名	2名	2名	1名	
達成状況説明	ICT支援員を小・中学校で1名配置することにより、教員のICT機器の習熟度を向上することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		①教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合:80%以上	目標	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績	89.90%	95.90%	89.37%		
	②児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	(80%)	(80%)	(80%)	()	
		実績		64.50%	78.40%	74.86%	
	進捗状況説明	成果目標①においては、3月に教員にアンケートを実施した。その結果、89.37%が習熟度が上がったと答え、目標を達成することができた。また、ICT支援員を配置したことによって、電子黒板や書画カメラなどを積極的に活用していくことができ、わかりやすく魅力ある授業に取り組むことで、教育の質の向上に繋げることができた。 成果目標②においては、3月に生徒をランダムで抽出を行いアンケートを実施した。その結果、目標達成には至らなかったが74.864%が分かりやすかったと答え、目標に近い結果となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) ICT支援員を配置したことで、支援員が持っているスキルを学ぶことができたことから、教員のICT機器の習熟度の向上を図ることができた。その結果、児童・生徒への分かりやすい授業へと繋げることができた。	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) 引き続き成果目標を80%以上とし、教員のICT機器の習熟度を上げていく。また、今回のアンケートでは成果目標を達成しているものの、約10%が習熟度が変わらないと回答しているため、支援員と協力してICT機器の更なる活用方法を検証していく。
	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合) アンケート調査では74.86%と、目標の80%以上には届かなかった。また、昨年度と比較してみると3.54%減少しており、要因としては、電子黒板を使用している授業に対する「分かりやすい」が減少したのはもちろんのこと、「どちらでも変わらない」が増加したことによるものである。また、故障や見えづらいなど機器特有に関する意見もあった。	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合) ICT機器の特性を活かしたインターネットや動画などの分かりやすい授業を行うのはもちろんのこと、ICT機器の環境も維持していく。そうすることで、児童生徒が集中して授業を受けることができ、ICT機器を活用した授業に対する分かりやすさの向上に繋げていくことができる。

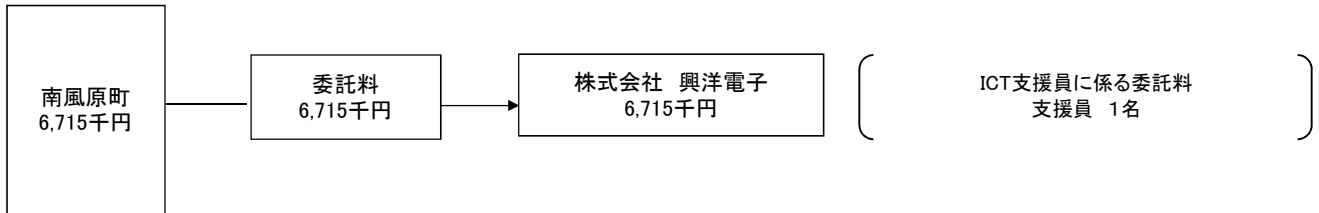
今後の取り組み方針

(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟)
教員のICT機器の習熟度を上げていくためにICT支援員と連携し、活用方法などを記したマニュアル作成や実演による研修、動画を活用した新たな授業支援など様々な方法を用いておこなっていく。また、人事異動などもあることから新規の教員については丁寧に支援をおこない、ICT機器の習熟度を上げていく。

(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合)
ICT機器を活用した授業において、機器の故障などによるトラブルなどがあり、授業に支障をきたす場合などがある。そのため児童生徒が集中して学びやすい環境を維持するため、ICT機器の環境維持にも努めていく。また、インターネットや動画などICT機器を活用した授業を積極的におこない、分かりやすい授業をおこなえるよう推進していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,715	6,715	5,371	1,344	0



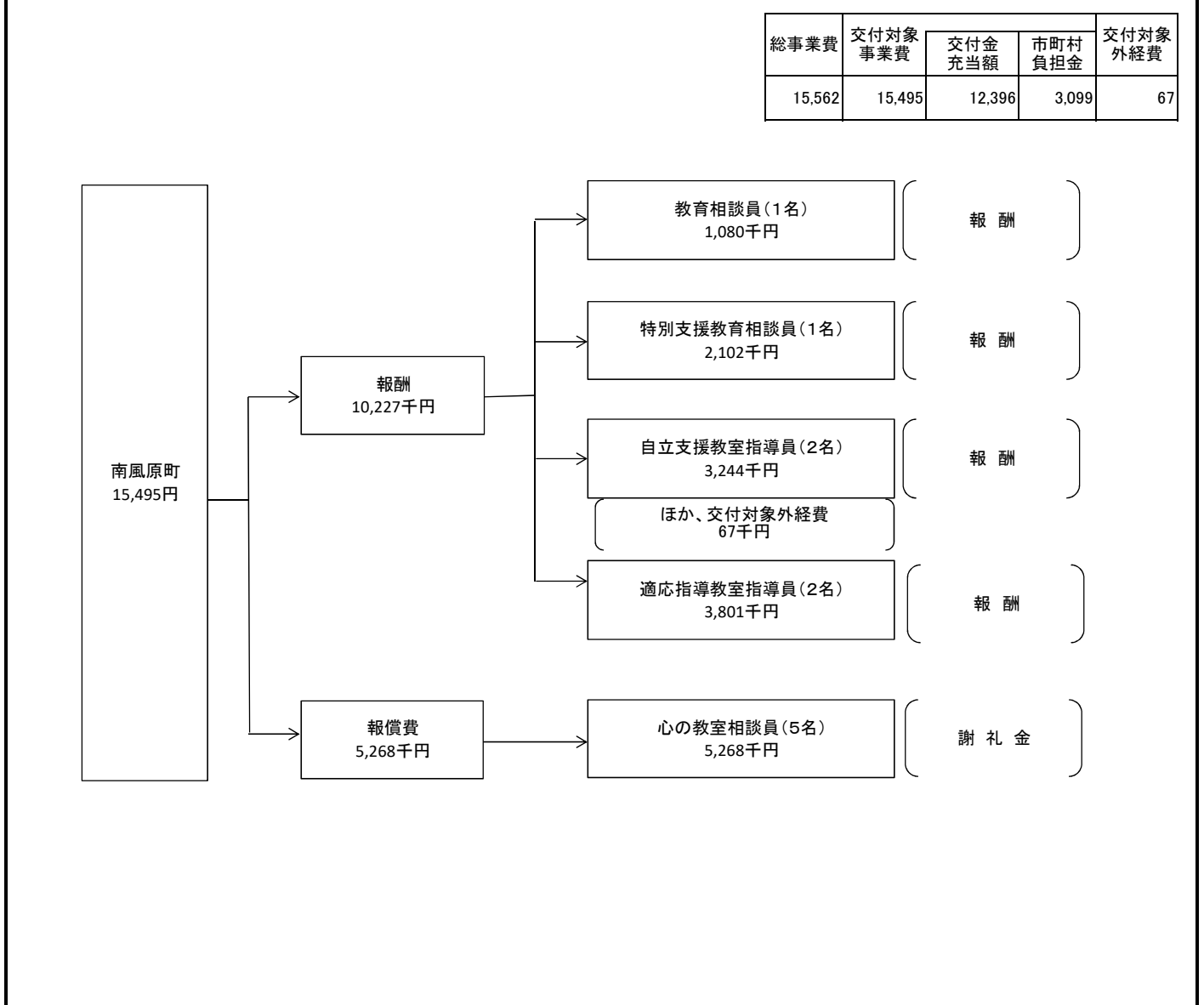
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ICT支援員委託事業はプロポーザル方式で選定を行っており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ICT支援員の適正配置に係る予算が積算されており、不用品もないことから予算規模は適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途についてはICT支援員委託事業における必要経費であり、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦ 教育相談支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-イ		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	家庭・地域の教育機能の充実	
事業内容		不登校児童生徒の支援のため、青少年教育相談員、特別支援教育相談員、自立支援教室支援員、適応指導教室学習支援員、心の教室相談員を配置する。					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	8,942	8,943	16,142	16,143	16,143
	(b) 予算現額	7,708	6,793	16,139	15,854	15,614	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,234	▲ 2,150	▲ 3	▲ 289	▲ 529	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,708	6,793	16,139	15,854	15,614	
	B. 執行済額	7,449	6,768	15,333	15,853	15,495	
	うち交付金充当額	5,959	5,414	12,266	12,682	12,396	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.6%	99.6%	95.0%	100.0%	99.2%	
予算の状況の説明		予算の529千円減額は、当初4月から採用を予定していた自立支援教室指導員1名の配置が7月途中になったことから3月補正で減額したことによるものである。執行率については99.2%だが、必要な配置は全て行えた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・青少年教育相談員 1名配置 ・特別支援教育相談員 1名配置 ・自立支援教室支援員 2名配置 ・適応指導教室学習支援員 2名配置 ・心の教室相談員 5名配置	目標	(配置)	(配置)	(配置)	(配置)	
		実績	配置	配置	配置	配置	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	町内の小中学校に青少年教育相談員1名、特別支援教育相談員1名、自立支援教室支援員2名、適応指導教室学習支援員2名、心の教室相談員5名を配置し児童生徒・保護者・教職員への指導助言を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
				()	()	(60%)	(60%)
	不登校児童生徒復帰率 60%	目標	()	()	(60%)	(60%)	()
		実績		45.8%	37.1%	22.4%	
【参考指標】 不登校児童生徒復帰率(全国)	目標	()	()	()	()	()	
	実績		28.1%	25.3%	26.5%		
進捗状況説明	不登校児童生徒復帰率については、昨年度の37.1%から22.4%に減少し目標値60%を下回った。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度(平成31年度)の不登校になった児童生徒の主な要因は、小学校、中学校ともに「無気力、不安」が最多となっている。 小学校では、「無気力、不安」の次に「親子の関わり方」が多くなっており、学校と保護者の学校教育に対する考え方の相違や、親子関係の悪化が見られた。また、本人や保護者と話しても不登校の理由がはっきりしないなど、集団生活への不適應、発達障害など特別な支援を要する要素も考えられる。 中学校では、「無気力、不安」の次に「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が多く、本人に係る状況が主な要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や保護者だけで対応が厳しい児童生徒については、専門的な意見も取り入れて対応策を検討する必要がある。 目標としている不登校児童生徒登校復帰率の達成に向け、引き続き教育相談員等の配置を行うとともに、学校、保護者と連携を密にとり、不登校要因の把握に取り組む。 不登校要因への対応については、保護者の協力が不可欠であることから、保護者へのアプローチの強化を検討する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の主な要因となっている「無気力、不安」については、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、専門的な意見をもとに校内で対応策を検討し、不登校の改善に取り組む。 小学校では、不登校の要因として「親子の関わり方」が上げられていることから、保護者への教育相談を充実するとともに、関係機関と連携し保護者に対する支援にも取り組む。 中学校では、不登校の要因として「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が上げられていることから、保護者への教育相談を実施するとともに、生徒指導の強化にも取り組む。 学校と行政が連携し普段の教育相談を充実させ早期に対応することで、不登校の未然防止及び登校復帰に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



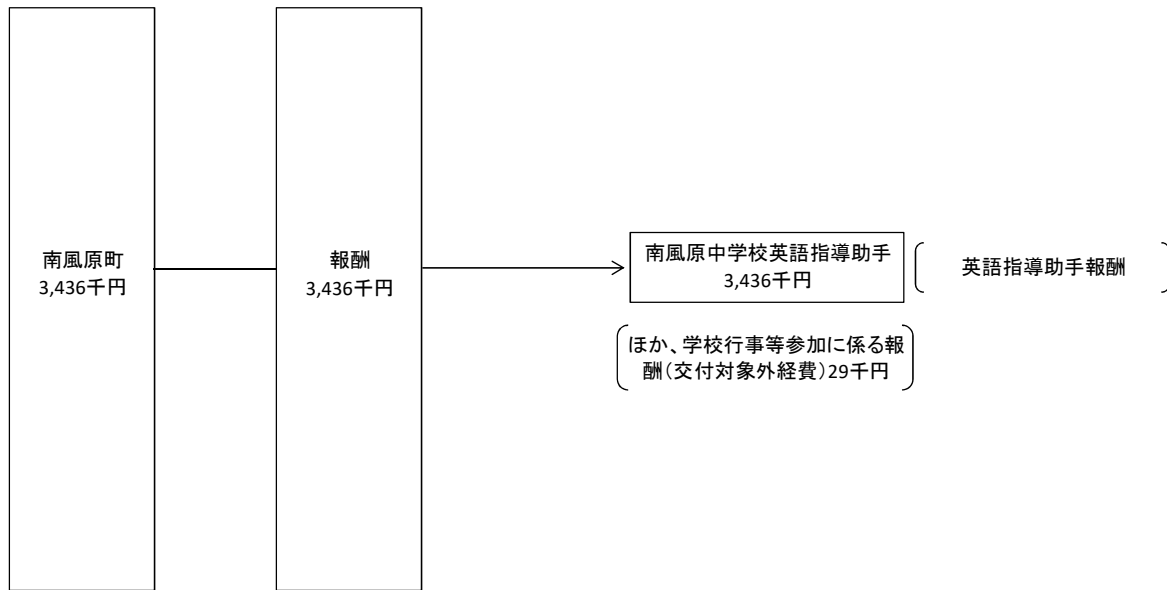
資金の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員、特別支援教育相談員、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧ 中学校外国人英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	中学校英語学力の向上を図るため、中学校に外国人英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780
	(b) 予算現額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,465	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 315	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	3,780	3,780	3,780	3,780	3,465	
	B. 執行済額	3,730	3,780	3,780	3,722	3,436	
	うち交付金充当額	2,984	3,024	3,024	2,977	2,748	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	100.0%	100.0%	98.5%	99.2%	
予算の状況の説明	当初は4月から外国人英語指導助手を配置する予定だったが、5月からの採用となったため、3月補正で1ヵ月分の予算315千円を減額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	外国人英語指導助手の配置 中学校 1名	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人	1人	1人	1人	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	採用時期は1ヵ月遅れたが、目標どおり配置し英語教育を展開することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)	
		標準学力調査の平均正答率について、目標値との差を縮める。 1年:-1.9ポイント以内 2年:-13.8ポイント以内	()	()	(1年:-2.6 2年:-2.7)	(1年:-1.9 2年:-13.8)	()
		実績			(1年:-1.0 2年:-13.6)	(1年:+0.3 2年:-14.4)	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	標準学力調査の平均正答率にて1年生は目標値を達成(正答率79.5%、目標79.2%)することができたが、2年生に関しては目標値を達成することができなかった。(正答率45.3%、目標59.7%)						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学力調査の結果をみると、1年生は比較的に正答率が高いが、2年生になると正答率が低くなっている。外国人の先生を配置することで、身近に英語を感じることはできるが、文法等の応用分野に入ると正答率が下がると思われる。</p>	<p>・担任の先生と外国人英語指導助手で協力して授業の工夫・改善を行っていく、応用分野でも苦手意識を持たないよう、英語の学力向上に努めていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・学習した文法を使って英会話を行ったり生徒達がどの分野が苦手なのか分析をする等、外国人の先生と担任の先生との連携・協力により、楽しみながらも英語を学べるよう授業の改善を行い、英語学力の向上を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

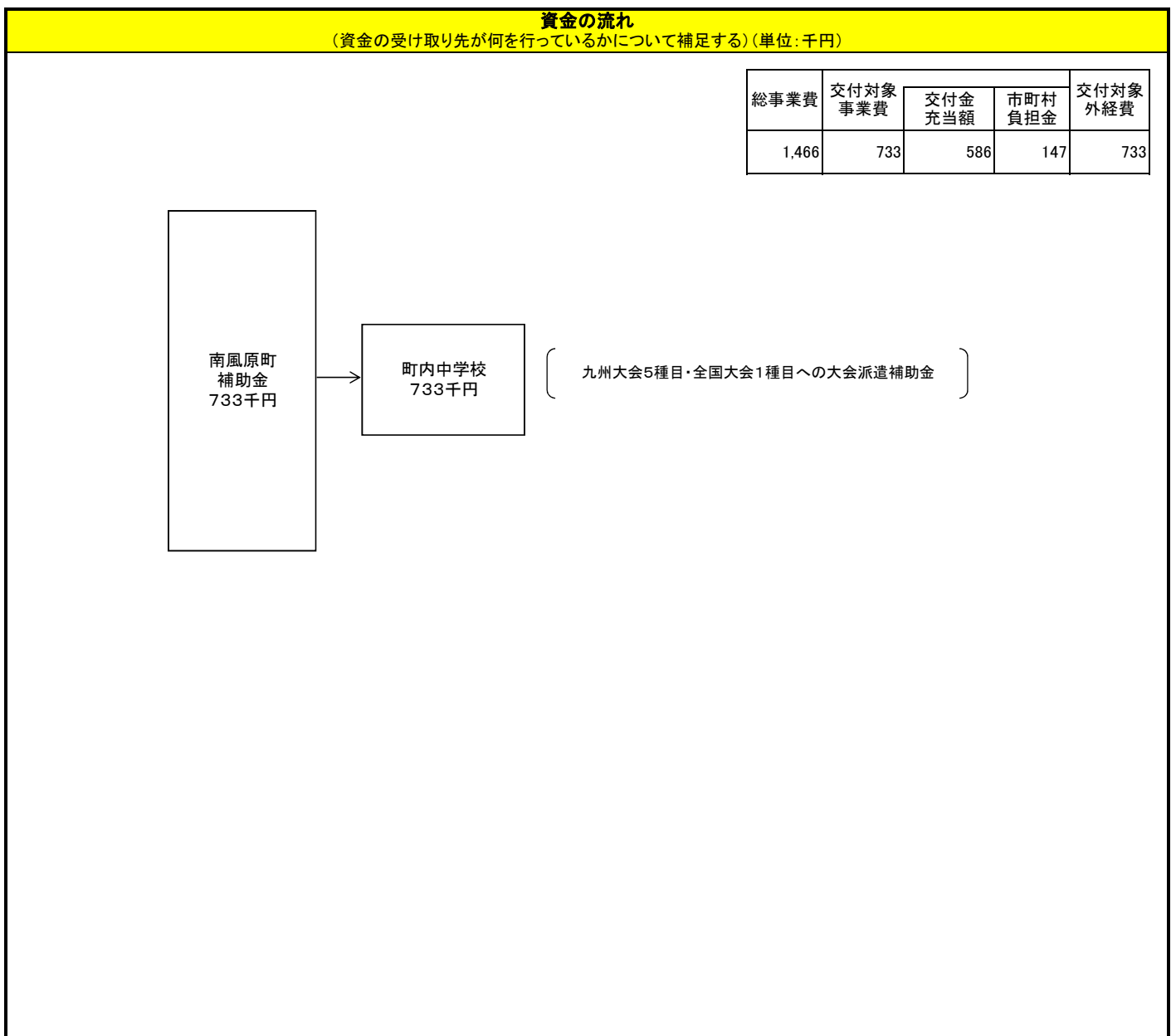
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,465	3,436	2,748	688	29



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○外国人英語指導助手は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた給与を支払っており適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨ 南風原町各種大会派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	県外の人との競争や交流の機会を増やし、児童生徒に広い視野を持たせるため、小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	1,990	1,991	1,800	1,800	1,200
	(b) 予算現額	1,990	1,639	1,400	1,127	1,599	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 352	▲ 400	▲ 673	399	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	1,990	1,639	1,400	1,127	1,599	
	B. 執行済額	1,685	1,404	1,123	604	733	
	うち交付金充当額	1,348	1,123	898	483	586	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	84.7%	85.7%	80.2%	53.6%	45.8%	
予算の状況の説明	県外大会に参加する児童生徒に対し、派遣費の一部を補助した。 また、執行残の866千円は、小学校の全国リコーダーコンテストが新型コロナウイルス感染拡大防止のため大会中止となったためである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	児童生徒の大会派遣の支援	目標	(派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	
		実績	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	九州大会5種目、全国大会1種目、延べ30人(実人数21人)の児童・生徒を運動競技大会又は文化関係大会に県代表として派遣することの支援ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童等の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する	目標	()	(-)	(80%以上)	(80%以上)
	実績			-	100%	100%	
		目標	()	(全員への支援)	(対象者への支援)	(対象者への支援)	()
実績			全員への支援(58人)	延べ26人	延べ30人		
進捗状況説明	本事業のあり方を検証するため、県外の大会に参加した生徒の視野が広がったかについて保護者に対してアンケートを実施した。21人からの回答を集計した結果、全保護者から視野が広がるなど成長するうえでいい機会であるとの回答が得られた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学校と連携して補助対象の児童・生徒の把握に努めたことで対象者全員へ支援することができた。</p>	<p>・補助対象の児童・生徒全員への支援については、本制度の周知と学校と密に連携をとることでうまく事業を推進できているので、改善の必要はないものと考えられる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き学校へ本制度の周知を行い、学校と密に連携をとることで対象となる児童生徒の把握に努め、補助対象の児童・生徒全員への支援に取り組む。</p>		

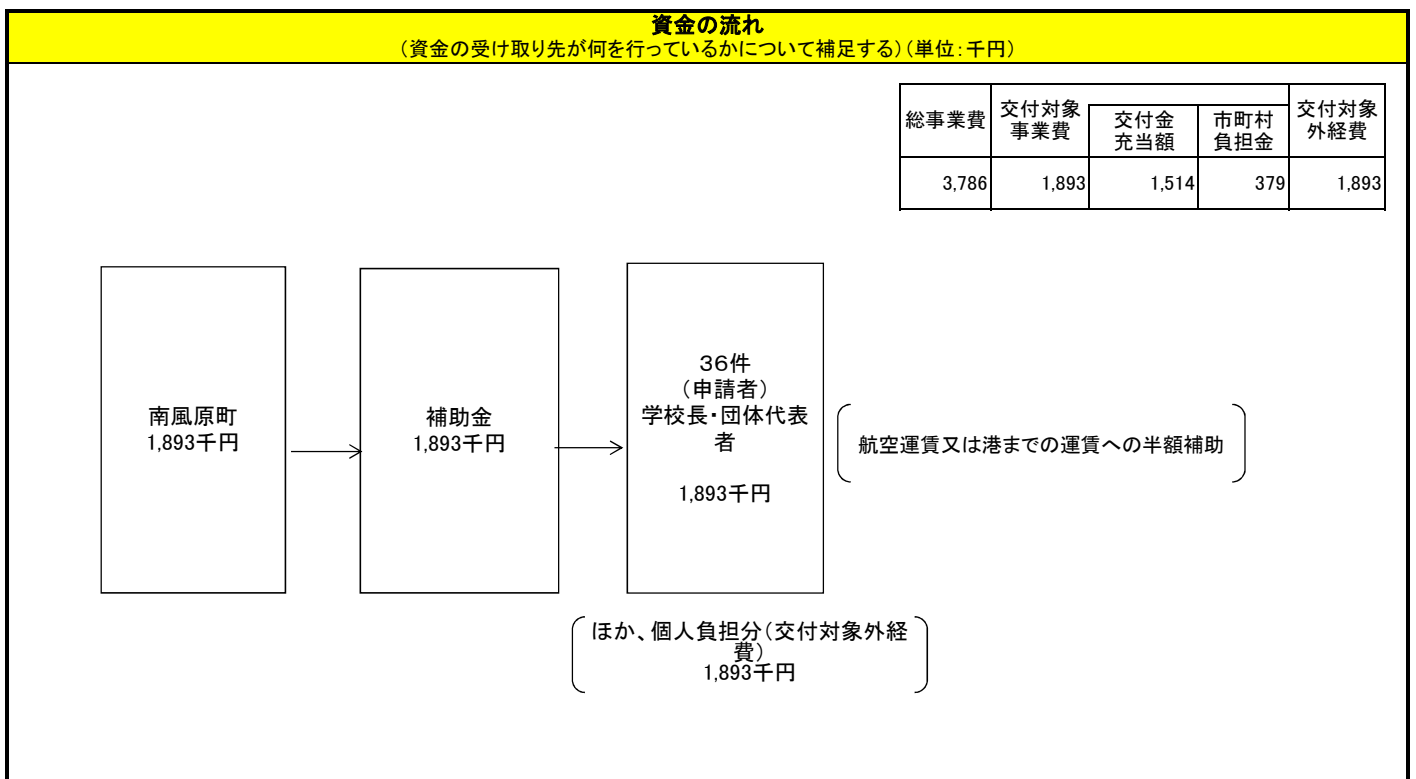


資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模で執行率が低い要因は、派遣予定であった小学校の全国リコーダーコンテストが中止となったためである。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩ 南風原町県外等派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-イ		
	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	
担当部課名					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976
	(b)予算現額	2,341	2,076	3,051	2,976	2,376	
	(c)増減額(b-a)	▲635	▲900	75	0	▲600	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	2,341	2,076	3,051	2,976	2,376	
	B.執行済額	2,299	2,002	3,021	2,406	1,893	
	うち交付金充当額	1,839	1,601	2,416	1,924	1,514	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.2%	96.4%	99.0%	80.8%	79.7%	
予算の状況の説明	コロナウィルス感染症拡大防止による派遣中止のため申請件数が伸びず執行率が79.7%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	達成状況						
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	目標	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	
		実績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	人材育成を目的として野球、サッカー等の運動競技の他、文化活動など多様な分野について支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対してアンケートを取り本事業の在り方を検証する。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績			94%	83%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	派遣人数は122人で、アンケートの結果によると「広い視野を持つ事」、「競技に対する姿勢」がとても向上したとの回答が80%を超えた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果が目標値を超えることが出来た。 児童の感想文からも向上心が育まれていることが分かった。 アンケートから県外大会が2回以上あるため複数回申請希望があった。 年度後半に予想外のコロナウィルス感染症拡大防止のため、派遣ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数回申請希望については、より多くの生徒に補助金を交付するために回数を増やすことは好ましくないとされる。 コロナウィルス感染拡大の影響により予算の執行率が低かったのでR2年度も影響が残ると考えており注視していく。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 学校に事業の詳細を文書等で通知し早めの申請を促す。 派遣事業が減少する可能性があれば早めに補正予算を計上する。 より多くの生徒に補助金を交付するために申請回数の上限について検討する。



資金の流 れの点 検・評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、南風原町県外派遣に関する助成金交付要綱に照らして決定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援金額については普通運賃額を超えないように比較し、適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限って交付している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 南風原町幼稚園体育活動充実事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
	担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	幼少期に運動する楽しさを実感し、その後に運動習慣を身に付けるため、幼稚園児を対象に専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a)当初予算額	2,281	1,711	1,711	1,729	
	(b)予算現額	1,046	1,711	1,711	1,743		
	(c)増減額(b-a)	▲1,235	0	0	14		
	(d)繰越額	-	-	-	-		
	A.計(b+d)	1,046	1,711	1,711	1,743		
	B.執行済額	1,046	1,711	1,711	1,728		
	うち交付金充当額	836	1,368	1,368	1,382		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%		
予算の状況の説明	当初計画どおり、プロポーザルにより業者を選定し、事業を執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	町立4幼稚園で専門講師による体育指導を行い、各園で5歳児27回、4歳児9回、合計36回実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
	運動する楽しさを実感したか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	実績			94.24%	96.16%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	運動する楽しさについて、園児365人中351人が体育遊びが好きと回答し(96.16%)、目標を上回る結果となった。また、保護者へのアンケートでは93.06%の保護者が運動能力があがったと実感しており、99.36%の保護者が本事業は良い取り組みだとの回答を得た。このことから、本事業は保護者や園児からも高い評価を得ており、あり方についても評価されている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・成果目標にもある「運動する楽しさ」を実感できるよう、事前に各園と指導方法等について調整を行った事に加え、5歳児の園児については2年目の体育指導となることから、前年の事も踏まえた指導に取り組めた。</p>	<p>・園児が本事業を通して「運動する楽しさ」を実感できており、事業の進め方については改善の余地はないと考える。今後は、幼稚園教諭も指導のサポート等を通して、専門的な知識を身につけ普段からの幼稚園教育に活かすことができれば、さらに効果が向上することが考えられる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・今後もこれまで同様、専門的な知識を持つ受託事業者を選定し、その専門的知識を十分に活かし指導ができるよう、各幼稚園との調整に努める。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,728	1,728	1,382	346	


```

graph LR
    A[南風原町  
1,728千円] --> B[委託料  
1,728千円]
    B --> C[株式会社太陽スポーツクラブ  
1,728千円]
    subgraph Note
    D[南風原町立幼稚園体育活動充実支援委託業務]
    end
    C --- Note
  
```

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○地方自治法施行令に基づく随意契約(プロポーザル実施)により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については不用額もなく適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫ 幼稚園空調機設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成30~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	沖縄は長期間にわたり気温が高くなるため、園児の健康維持や熱中症対策を目的に、幼稚園に冷房機を設置する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R2年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,394	15,818			
		(b) 予算現額	17,527	10,197			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,867	▲ 5,621			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	17,527	10,197			
	B. 執行済額		14,507	10,197			
	うち交付金充当額		11,605	8,157			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		82.8%	100.0%			
予算の状況の説明		4幼稚園(4教室)に冷房機を設置した。指名競争入札を行ったところ、5,621千円の入札差金が生じたため、うち2,869千円については事業間流用し、その他は市町村間流用を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	幼稚園冷房機設置 ・工事 4園 4教室の整備	目標	(4園 8教室の整備)	(4園 4教室の整備)	()	()	
		実績	4園 8教室の整備	4園 4教室の整備			
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	予定していた4幼稚園(4教室)に冷房機を設置を実施し事業完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R2年度)
	冷房機を設置した幼稚園で暑さによる体調不良となる園児数0人	目標	()	()	(0人)	()	(0人)
		実績			0人		
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	平成30年度に整備した冷房機により体調不良となる園児数は0人で目標を達成することができた。なお、令和元年度に予定していた4幼稚園(4教室)に冷房機を設置を行ったが、工事が空調稼働期間中に完了しなかったため、令和2年度の空調稼働期間において成果目標の検証を行う。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成30年度事業により、冷房機を設置した箇所については、令和元年度で検証したところ、教室の環境改善が図られ、熱中症発症の園児数は0人であった。令和元年度事業により、冷房機を設置を実施した箇所については、工事が空調稼働期間中に完了しなかったため、整備した教室の環境改善が図られたかの検証は令和2年度に行う必要がある。</p>	<p>・冷房されている室内との急激な温度差で、体温調整が未熟な園児の体に負担とならないように環境調整に努める。扇風機との併用やカーテン等を利用して冷房効率を高め、省エネに努めることで効率的な利用を行う。新しく策定した運用基準の稼働時間や設定温度等で適切に運用する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・幼稚園4園全ての教室に空調機を整備できた。今後は、新たに定めた空調機運用指針に基づいた適切は運用を行い園児の健康維持に努める。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	10,197	10,197	8,157	2,040	0
<pre> graph LR A[南風原町 10,197千円] --> B[工事請負費 10,197千円] B --> C[有限会社浜冷機工業 10,197千円] C --- D[幼稚園特別教室空調機整備工事] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については指名競争入札により実施しており妥当であったと考える。 ○予算規模は、積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 南風原町観光景観美化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
	担当部署	経済建設部 まちづくり振興課 民生部 こども課			事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	
事業内容						沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
	予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
予算の状況		(a) 当初予算額	6,442	6,442	6,780	6,780	6,782
		(b) 予算現額	6,442	6,442	6,780	6,780	14,867
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	8,085
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
A. 計(b+d)		6,442	6,442	6,780	6,780	14,867	
B. 執行済額		6,061	6,104	6,559	6,651	13,493	
うち交付金充当額		4,848	4,883	5,247	5,320	10,794	
次年度繰越額		0	0	0	0	0	
執行率(%) (B/A)		94.1%	94.8%	96.7%	98.1%	90.8%	
予算の状況の説明		・観光ルートの美化整備を4人(H31.4～R1.9)10人(R1.10～R2.3)で行うなど予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事ができた。 ・フクギ並木の整備工事は、当初設計及び工事を実施予定だったが、フクギ並木群が町指定文化財であることから、文化財保護委員会から慎重な工事実施を求める要請があり、令和元年度に設計委託、令和2年度に工事を行う計画に変更し予算補正を行った。令和元年度の設計委託業務(2,475千円)については計画通りに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	観光ルート延長L=18,400mの町道メンテナンス(美化清掃、公園6箇所の景観美化)	目標	(L=12,600m)	(L=12,600m)	(L=12,600m)	(18,400m 公園6箇所)	
		実績	L=12,600m	L=12,600m	L=12,600m	18,400m 公園6箇所	
	フクギ並木(L=40m)の整備	目標	()	()	()	(L=40m)	
		実績				L=40m	
達成状況説明	・景観美化作業員を4人(H31.4～R1.9)10人(R1.10～R2.3)雇用し、町道、公園のメンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。 ・文化財保護委員会からの要請を踏まえ、樹木医の意見を取り入れつつ、フクギ群への浸食低減や軟弱地盤の影響を踏まえた設計業務を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観形成を図られたがアンケートにより、本事業のあり方について検証する。(80%以上)	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
		実績			80%	80%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・道路美化に関するアンケートを行った結果、景観形成が図られたと思う割合が80%以上となっており、目標を達成することができた。					

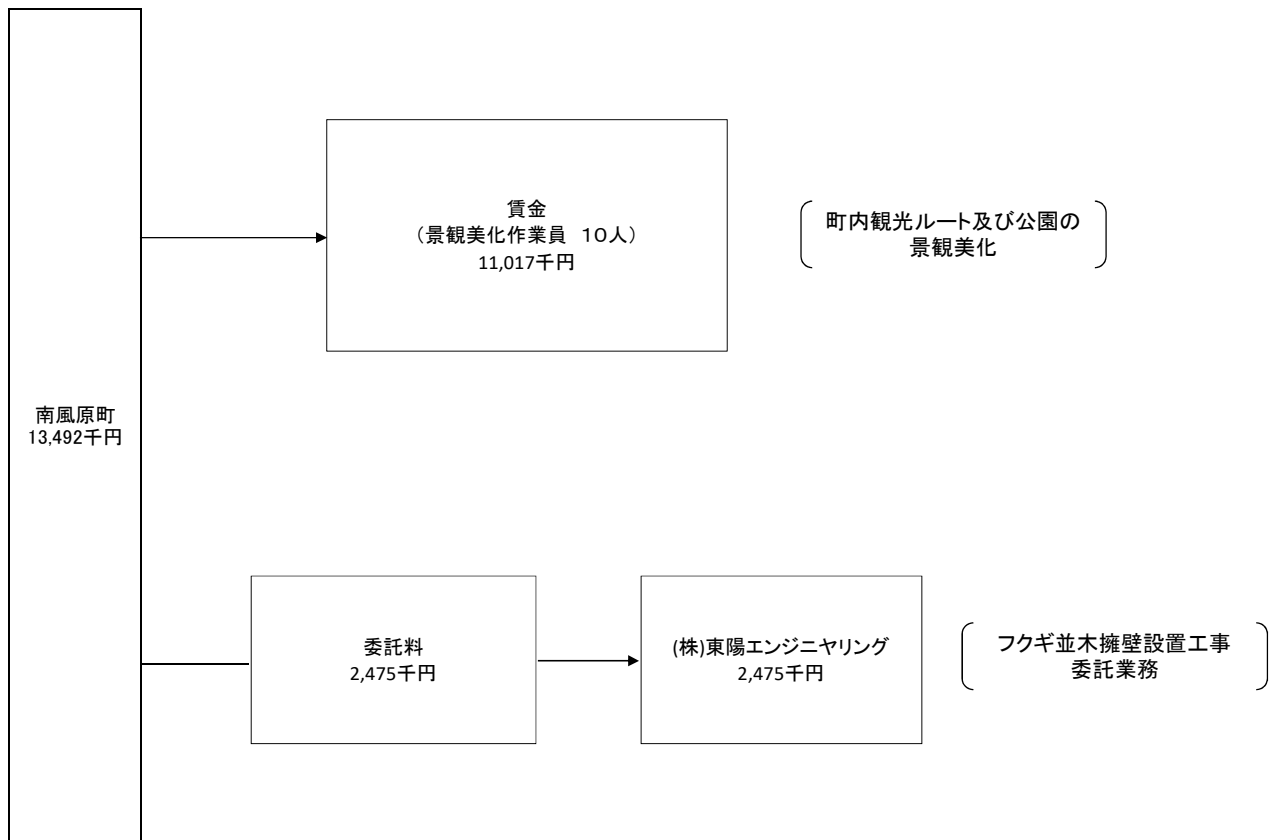
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 観光ルートとなる道路や公園の環境整備を実施してきたが、5月～10月は雑草の生育が早く作業が追いつかない状況があった。今後、美化活動を実施する道路等の優先順位の見直しや増員について検討する必要がある。 工事実施時においても、引き続きフクギ群への浸食低減を意識した工事管理のあり方を確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光ルートの景観を維持するため、施設周辺のパトロール回数を増やし現状を把握すると共に、自治会との情報交換により効率的な人員配置を行う必要がある。 フクギ並木の整備時には、景観形成を意識した工法や案内板の設置も確認していく。

今後の取り組み方針

- 観光施設や地域の歴史、文化財へのアクセス道路の美化活動を行っていくうえで、雑草等の種類や繁殖時期を把握して各施設に必要な作業、人員の配置を効率的におこなう事で、観光ルートの環境美化を実施していく。
- フクギ並木が文化財指定であることから景観形成を意識し、文化財保護審議委員の意見も参考に擁壁面及び案内板の整備を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
13,492	13,492	10,794	2,698	0



資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定し雇用を行った。委託料は指名競争入札で支出先を選定しており、妥当だったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、委託の積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・志途について賃金は、額の確定時において支出に関する書類等で確認しており適正であった。また、委託料についても精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

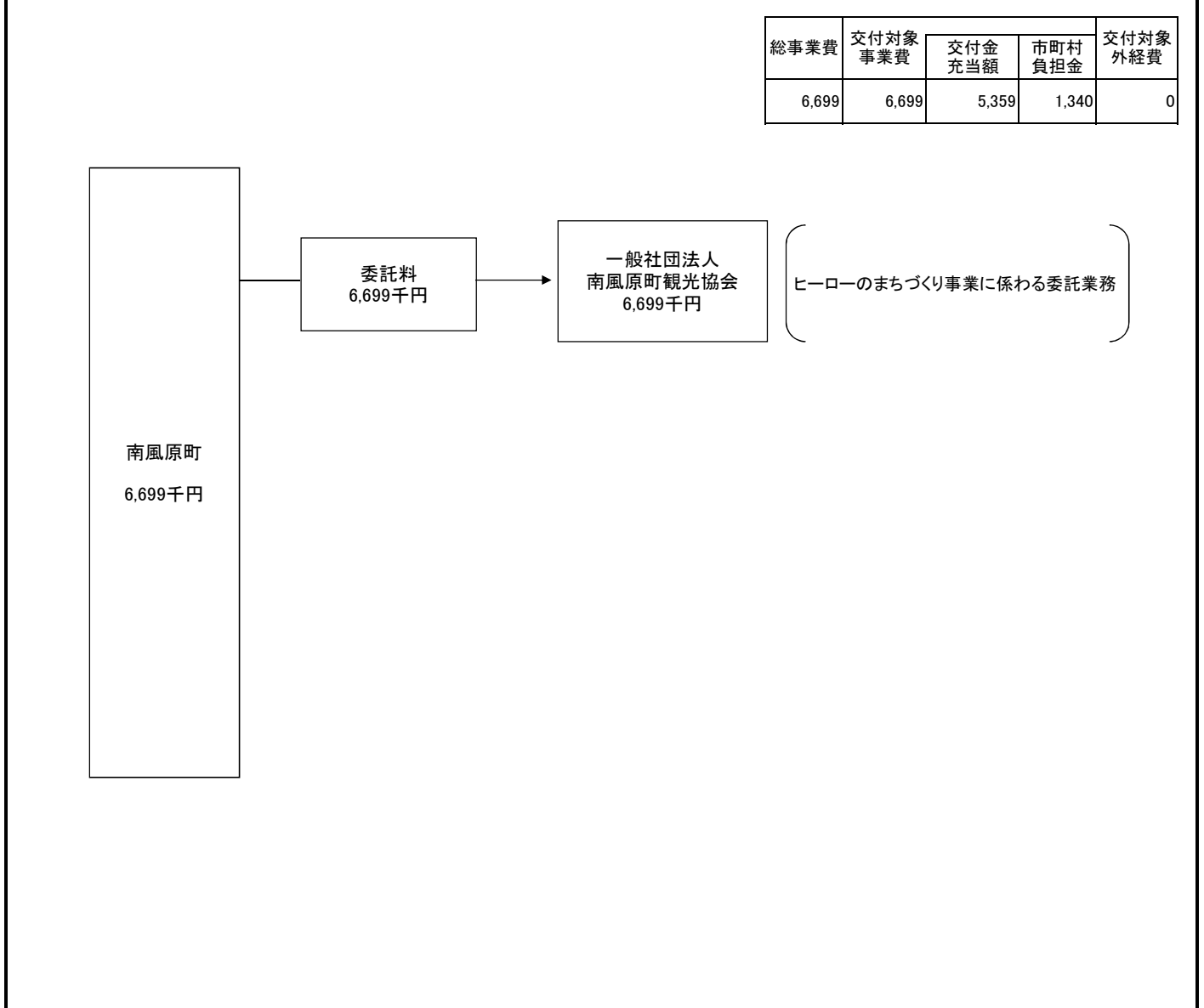
市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② ヒーローのまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
	担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本町の観光振興及び地域活性化のため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信イベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	7,961	7,999	7,310	7,310	7,440
		(b) 予算現額	7,961	7,998	7,310	7,310	7,440
		(c) 増減額(b-a)	0	▲1	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	0
	A. 計(b+d)		7,961	7,998	7,310	7,310	7,440
	B. 執行済額		6,523	7,232	6,867	7,213	6,699
	うち交付金充当額		5,218	5,786	5,493	5,770	5,359
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		81.9%	90.4%	93.9%	98.7%	90.0%
予算の状況の説明		当初計画していた事業は年度末の新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止等により減となっているが活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。不用額741千円については、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止等により実績が下回った事によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	イベント開催:1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績	3回	3回	4回	4回	
	脚本賞舞台化:1回	目標	()	(1回)	(1回)	(1回)	
実績			1回	1回	0回(中止)		
達成状況説明	金城哲夫生誕地事業として、「ウルトラマン上映会」のほか飛び安里凧上げ大会を開催した。また、令和2年2月に予定されていた「金城哲夫展」及び「脚本賞受賞作品の舞台化」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数:3,200人	目標	()	(1,000人)	(3,400人)	(3,200人)
	実績				1,902人	3,500人	1,063人
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数について、ウルトラマン上映会に640人、凧上げ大会に400人の参加があったが、金城哲夫展、舞台は中止となったため目標数を達成できなかった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・金城哲夫生誕地事業として海の日にウルトラマン上映会を開催、多くの子どもたちが金城哲夫とウルトラマンの関係を知る機会となった。金城哲夫展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・金城哲夫氏の功績を映像にまとめたアーカイブスの上映を行い来場者増につなげる。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応したイベント開催方法が必要。
	(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・中央公民館ホールで予定されていた舞台は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・これまで実施してきた脚本賞の受賞作品を活かすため、舞台化に向けた取り組みを継続して行う。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応した舞台化の検討を行う。

今後の取り組み方針

(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・映画の上映会や金城哲夫展、脚本の舞台化のイベント実施時に新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講ずる。 ・金城哲夫アーカイブスを活用し、本町をヒーローのまちとして認知してもらい取り組みを強化する。
(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・これまでの脚本賞の作品を舞台化し、ヒーローのまちづくりの取り組みを強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ シマじまガイド事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ			
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容		訪問客に南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(名所案内巡り)を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステムを構築し、観光振興を図る。					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	6,874	9,071	8,321	10,448	10,521
	(b) 予算現額	6,874	9,071	7,436	10,448	10,521	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 885	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	6,874	9,071	7,436	10,448	10,521	
	B. 執行済額	6,124	7,347	7,179	9,873	8,096	
	うち交付金充当額	4,899	5,878	5,743	7,898	6,476	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.1%	81.0%	96.5%	94.5%	77.0%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画していた事業は年度末の新型コロナウイルス感染症の影響によるツアー中止等もあったが活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・事業途中に事業運営職員が退職し、後任を採用するまでに期間を要したことで不用額が生じた。 						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ガイド養成新規:2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実績	13名	8名	0名	4名	
	シマじまガイド開催:12回	目標	(12回)	(12回)	(12回)	(12回)	
実績		12回	12回	17回	12回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ガイド研修を5回開催しガイドのスキルアップを図った。また4人の新規のガイド養成を行うことができた。 ・シマじまガイドを12回開催した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		シマじまガイド事業参加者:1,700人	目標	()	(1,460人)	(1,460人)	(1,460人)
	実績				945人	1,672人	882人
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・シマじまガイド事業について、ツアー参加者214人、イベント参加者668人の合計882人という結果になった。新型コロナウイルス感染症の影響によるツアー中止もあり目標を達成することができなかった。 						

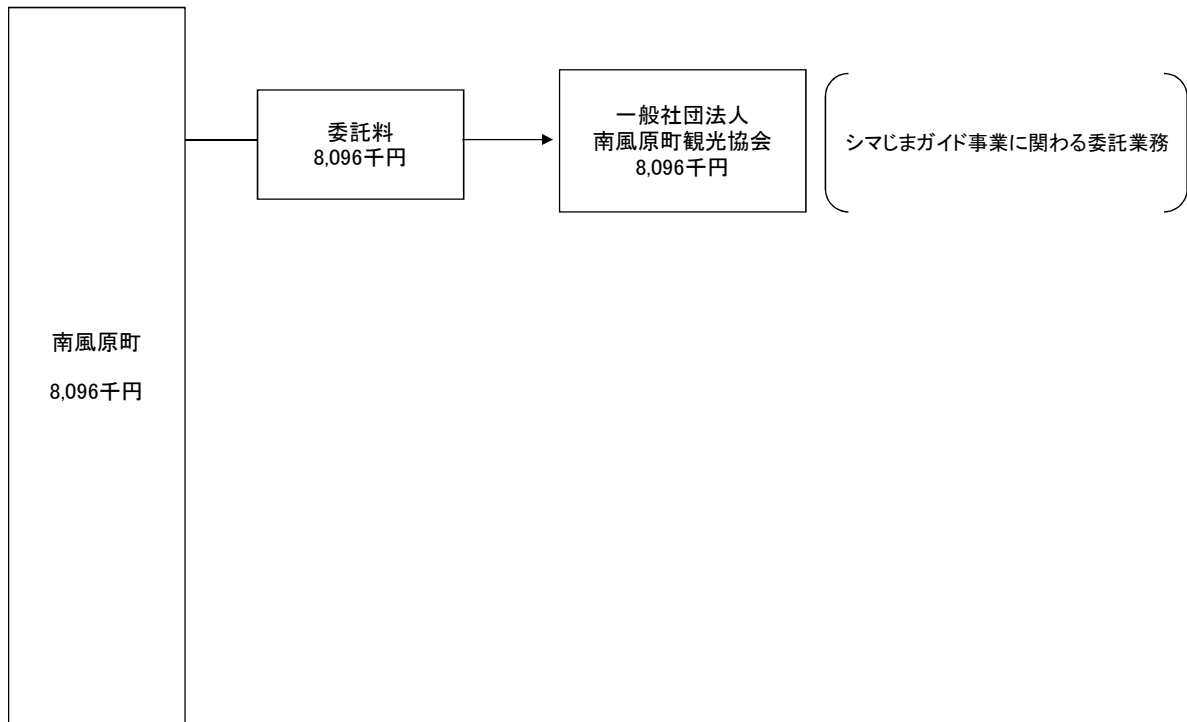
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・シマじまガイド参加者をさらに増やすために、新規参加者及びリピーターを増やしていく必要がある。 ・2月、3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのツアー中止もあり、参加者が増えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規参加者へのPR及びリピーターを増やすためガイドの質の向上を図る。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応したイベント実施が必要である。

今後の取り組み方針

- ・既存のガイドメニューの充実・強化と新規メニューの開発を行い、リピーター及び新規参加者へのPRに取り組む。
- ・ガイドの質向上のための実務や地域の歴史等の研修会を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応したツアー・イベントを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,096	8,096	6,476	1,620	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

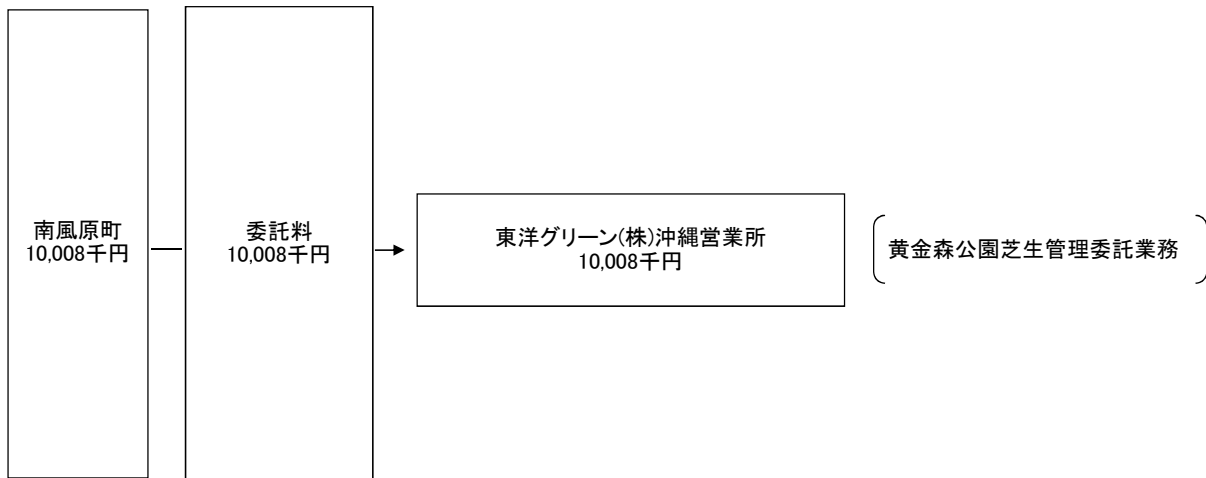
市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④ 黄金森公園スポーツ施設活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成		
事業内容	陸上、サッカー等合宿利用者数の増加及び、Jリーグキャンプ誘致による誘客を図るため、黄金森公園スポーツ施設のJリーグキャンプ受入体制等の整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		18,480	41,306	39,170	29,617	10,000	
		53,192	48,392	27,284	26,850	10,008	
		34,712	7,086	▲11,886	▲2,767	8	
	B. 執行済額		51,967	44,823	26,291	26,270	10,008
	うち交付金充当額		41,573	35,858	21,032	21,015	8,006
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.7%	92.6%	96.4%	97.8%	100.0%
	予算の状況の説明		・消費税の増税に伴い、7千円の増となっている。 ・R元年度より事業縮小(芝生管理委託のみ)となっているため、前年度予算減額比▲16,842千円となっている。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
陸上競技場及び野球場芝生の管理委託		目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	一部実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	Jリーグキャンプ及び全国高等学校総合体育大会サッカー大会受入のため、陸上競技場の芝生整備を実施し、スポーツ施設の整備を行うことで、サッカーJリーグチームの春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿、全国高等学校総合体育大会サッカー大会を誘致した。なお、野球場については本町の財政上の問題により予算措置できなかったため管理委託をすることができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	陸上、サッカー等合宿利用者数:1,500人	目標	()	(700人)	(1,800人)	(1,500人)	()
		実績		1,434人	1,213人	663人	
・Jリーグキャンプ・全国大会来場者数:10,000人	目標	()	(10,000人)	(8,600人)	(10,000人)	()	
	実績		約9,800人	約5,900人	約6,070人		
進捗状況説明	・合宿利用者数については、サッカーJリーグチームの春季キャンプ121人、県外大学等の陸上競技合宿で663人が利用した。Jリーグチームは昨年比1チーム増、プロ野球選手の春季キャンプ前の自主トレが5人と新たな受け入れがあったが、新型コロナウイルスの影響により県外大学等の陸上競技合宿が中止となり、目標達成はできなかった。 ・キャンプ等見学者数についても、6,070人と目標値に届かなかった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(陸上等合宿利用者数) ・17チームの合宿利用があったが、新型コロナウイルスの影響もあり、合宿を切り上げるなどで目標は達成できなかった。 (Jリーグキャンプ・全国大会来場者数) ・サッカーキャンプについては、各チームの練習日程を予め把握することが難しく、町から来場者向けの情報発信が困難であった。 (プロ野球選手自主トレ受入) ・投手のみの受入としたが、自主トレ期間中に少年野球の大会等と重ならないよう、事前に少年野球連盟等と日程調整を行った。	(陸上等合宿利用者数) ・県外合宿団体については、コロナ対策を広報するほか、陸上競技の練習器具を充実させそれを広報することで、県外大学等の陸上合宿を増やすことができる可能性がある。 (Jリーグキャンプ見学者数) ・トレーニングマッチについては直前にならないと開催情報が確定しないことから、情報発信の期間が短く、十分な広報活動を行うことが難しいため、各チームのSNSと連携を取るなど、効果的な発信方法を検討する必要がある。 (プロ野球選手自主トレ受入) ・受入調整の際に、少年野球連盟や中学校体育連盟との日程調整を行う。

今後の取り組み方針
(陸上、サッカー等合宿利用者数) ・陸上合宿については、フレキハードルの購入やスターティングブロックを増やす等、器具の充実をはかり利用者の練習効果・満足度をあげることで、今後の利用者数増を図っていく。 (Jリーグキャンプ見学者数) ・さらに効果的な情報発信ができるよう、キャンプするチームと町のSNSの相互活用など、様々な媒体を利用し情報発信を行っていく。 (その他合宿等誘致) ・年間の利用実績を見直し、利用頻度の低い時期に他のスポーツの合宿等が誘致できないか検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,008	10,008	8,006	2,002	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については、不用額もなく適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤ 南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(9)-ア	
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	ものづくり産業の戦略的展開
事業内容		本町の魅力の発信及び認証した商品の販売数増加を図るため、町内事業者を対象に商品開発に関するワークショップの開催や「はえばる良品」の認定、及び特産品の販路開拓等を行う。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,793	21,953	18,780	15,000	15,000
		(b) 予算現額	15,119	21,617	18,780	15,000	15,000
		(c) 増減額(b-a)	▲ 4,674	▲ 336	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	15,119	21,617	18,780	15,000	15,000
	B. 執行済額		15,112	21,617	18,779	14,999	14,531
	うち交付金充当額		12,089	17,293	15,023	11,999	11,624
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.9%
予算の状況の説明		販路開拓やブランド認証制度の構築・運用業務等を委託し、ほぼ予定通り事業の執行を行うことができたが、販路開拓の事業において、コロナウイルス感染症の影響により出展予定のイベントが中止になったことで、委託料が減額になり不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	商品開発に関するワークショップの開催:5回	目標	()	()	()	(5回)	
		実績				6回	
	ブランド認証制度の構築・運用	目標	()	(構築・運用)	(構築・運用)	(構築・運用)	
		実績		構築・運用	構築・運用	構築・運用	
	28年度に認証した商品のPR	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	販路開拓、拡大、テスト販売:5回	目標	()	(3回)	(5回)	(5回)	
		実績		5回	12回	4回	
販路開拓セミナーの開催:6回	目標	()	()	(6回)	(6回)		
	実績			13回	6回		
達成状況説明		・商品開発に関するワークショップについては6回開催した。 ・ブランド認証制度の構築・運用については、ブランド商品認定委員会を開催し、4品を「はえばる良品」として新規認定した。 ・認定商品のPRについては、町広報誌や町商工会会誌、新聞やテレビなどのメディアに掲載・紹介されPRを行うことができた。 ・販路開拓、拡大、テスト販売については、県内へ4回出展してテスト販売を行い、認定商品のPRを行ったが、1件(名古屋でのイベントへの出展:令和2年2月)はコロナウイルス感染症の影響によりイベント自体が中止となり、参加することが出来なかった。 ・販路開拓セミナーは、6回開催し、県内外から百貨店のバイヤー等を講師として招聘し、販路開拓への問題点・対応方法等や、商品の価格設定や店舗設計などを学んだ。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	はえばる良品の販売個数増(びよびよシフォン)	目標	()	(-)	(5,035)	(5,456)	()
		実績			5,196	7,200	4,272
	はえばる良品の販売個数増(ゆめかなえぼしパウンドケーキ)	目標	()	(-)	(380)	(429)	()
		実績			408	320	450
	はえばる良品の販売個数増(漉しカボチャ使って味わうスープの素)	目標	()	(-)	(1,000)	(1,058)	()
		実績			1,007	1,800	2,000
	はえばる良品の販売個数増(はえばるのまきもの)	目標	()	(-)	(60)	(63)	()
		実績			60	82	90
	はえばる良品の販売個数増(ウォッチナー)	目標	()	()	(88)	(105)	()
実績					100	110	
はえばる良品の販売個数増(SANGOくっしょん)	目標	()	()	(450)	(630)	()	
	実績				720	640	
はえばる良品の販売個数増(沖縄キビまる豚)	目標	()	()	(430)	(420)	()	
	実績				1,000	1,200	

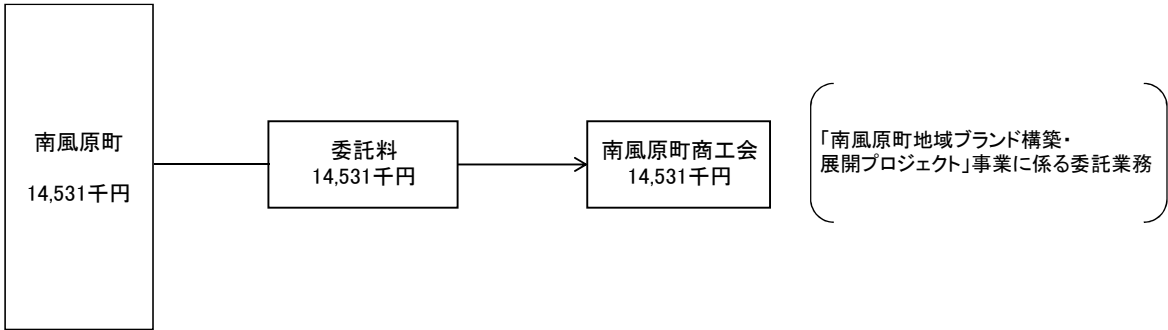
進捗 明 況 説	販売目標のほどんどを達成できたが、びよびよシフォンは製造場所の移転等の理由で減少した。去年減少したゆめかなえぼしのパウンドケーキは製造工程の改良を行い賞味期限を延ばしたことで販売増となった。
-------------------	---

取組 の 検 証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・びよびよシフォンは製造場所の移転により、販売できない期間があったため減少した。 ・去年減少したゆめかなえぼしのパウンドケーキは、“スターフルーツの砂糖漬”の製造工程を改良でき賞味期限を延ばせた等のため売上増となった。 ・事業を進めていく中で明確な課題(ウォッチナーの革バンドにカビが出る等)が見つかった商品があった。 ・さらなる個数増加には、認知度の向上、安定的な販路拡大が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外から百貨店バイヤー等を招聘し、販売増、販路開拓に繋がる商品のブラッシュアップを行った。その中でいくつか課題が見えてきた商品がいくつかあり、次年度では課題を克服し、販路拡大に向けて1商品(事業者)毎にきめ細かなブラッシュアップを行う。

今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・新規認定となりうる商品開発に関するワークショップを行う。 ・百貨店等のバイヤーを継続して招聘し、認定商品を中心に販売増、販路開拓ができるようセミナーを行う。課題が見つかった商品に対しては課題を克服できるようきめ細やかなブラッシュアップを行う。 ・町広報誌や商工会広報誌だけでなく、新聞やテレビなどのメディア、県内情報誌や航空会社の機内誌などへの掲載依頼活動を行う。またホームページやSNSをさらに活用してPRに努める。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
14,531	14,531	11,624	2,907	0



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考えられる。 ○予算規模について出展予定だった名古屋でのイベントがコロナウイルス感染症の影響により中止されたため不用額が発生した。 ○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥ 南風原町観光PR促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	観光客の受入体制の整備	
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本町の認知度向上と地域資源の情報発信を図るため、はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	9,300	9,860	7,318	3,360	3,360
	(b) 予算現額	9,300	9,860	7,318	3,360	3,360	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	9,300	9,860	7,318	3,360	3,360	
	B. 執行済額	9,287	9,669	7,186	3,360	3,360	
	うち交付金充当額	7,429	7,735	5,748	2,688	2,688	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.9%	98.1%	98.2%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	新型コロナウイルスの影響によるイベント自粛等により活動目標は下回ったものの、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施するなど、当初計画していた事業内容を概ね実施し適正に予算執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	イメージキャラクターによる観光PR活動(1年間で100回)	目標	(100回)	(100回)	(100回)	(100回)	
		実績	91回	92回	70回	58回	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> イメージキャラクター『はえるん』を活用した観光PR活動については、新型コロナウイルスの影響によるイベント自粛等もあり目標を達成できなかったが、町内や県内の各種イベントに参加して南風原町のPRを行った。また、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行った。 観光サイトを更新し、はえるんの出演情報や観光情報の発信を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		はえるん等利用申請数:50件	目標	()	(70件)	(50件)	(50件)
	実績				49件	36件	27件
	観光サイトアクセス数:207,500件	目標	()	()	(207,000件)	(207,500件)	()
		実績				167,415件	141,297件
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止のための活動自粛等によりはえるん等利用申請数は前年度より減少し、目標は達成できなかった。 観光サイトアクセス数も目標には届かなかった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・新型コロナウイルスの影響で、イベントの開催数が減り、利用申請件数、観光サイトアクセス数ともに成果目標を下回った。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染拡大下でも一定の成果をあげるために、新たな生活様式でのイベント出演や、オンラインでの活動に取り組む必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、町観光協会とのタイアップ動画の公開など、オンラインでの活動による利用申請件数、観光サイトアクセス数の向上を目指す。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	3,360	3,360	2,688	672	0
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目		評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○嘱託員は面接によりしかるべき人物を採用しており、妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○不用額はなく、適正な予算規模であった。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		南風原町									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2-⑦ 南風原町南インターチェンジ周辺土地利用計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)						
	担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課			事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度					
		事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度			沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興				
							Ⅲ-1-(7)				
事業内容	企業誘致等による産業振興を図るため、南風原南インターチェンジ周辺の特性を活かした土地利用基本計画を策定する。										
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度以降)										
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度	
		(a)当初予算額	4,224								
	(b)予算現額	3,850									
	(c)増減額(b-a)	▲374									
	(d)繰越額	-									
	A.計(b+d)	3,850									
	B.執行済額	3,850									
	うち交付金充当額	3,080									
	次年度繰越額	0									
	執行率(%) (B/A)	100.0%									
予算の状況の説明	増減額▲374千円は入札差金によるものである。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		
	上位計画の整理	目標	(実施)	()	()	()	()	()	()	()	()
		実績	実施								
	意見交換会の開催	目標	(実施)	()	()	()	()	()	()	()	()
		実績	実施								
	南風原南インターチェンジ土地利用基本計画書の策定	目標	(策定)	()	()	()	()	()	()	()	()
実績		策定									
達成状況説明	上位計画との整合性を図りながら整理を行い、関係地権者との意見交換会を開催する事ができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R3年度)				
	南風原南インターチェンジ土地利用基本計画書策定完了	目標	()	(計画書(案)策定)	()	()	()				
		実績		計画書(案)策定							
	【R3成果目標】 企業誘致2社以上	目標	()	()	()	()	(2社)				
		実績									
進捗状況説明	本地区の地理的特性を活かし、まちづくりの推進における課題を踏まえた上で関係地権者との意見交換会を開催し、土地利用計画書(案)を策定できた。										

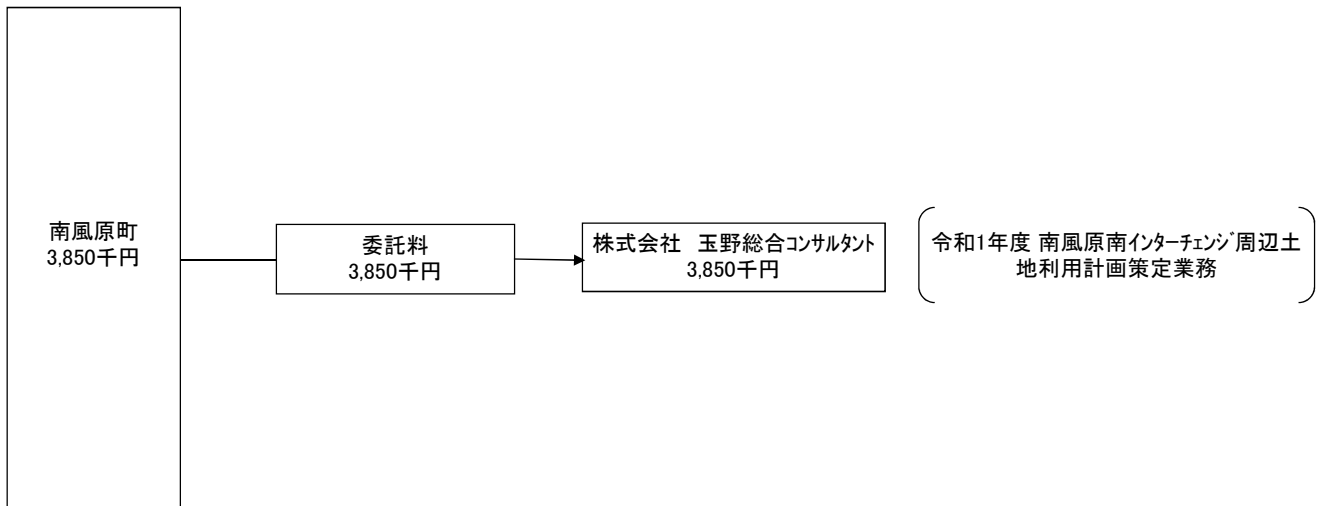
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・関係地権者説明会の参加者は、新型コロナウイルスの影響もあり2割程度にとどまった。</p>	<p>・今年度も説明会を予定しており引き続き新型コロナウイルスの影響が懸念される中ではあるが開催方法、開催時期、開催場所等を慎重に検討し、参加者の増加に繋げていきたい。</p>

今後の取り組み方針

・当該地区はこれまで、地権者から土地利用転換の意向及び、企業からの出店、進出等相談はあったものの都市計画法、農地法の制度により実現に至らなかった。本地区の特性を活かした土地利用計画の実現に向けて、土地利用計画書を策定する事と合わせて、具体的な事業計画等を作成し早期実現に向けて取り組む事で、企業誘致を図り、産業振興の発展に繋げていく。また、説明会の開催方法については新しい生活様式での説明会開催を行い、より多くの方々からの意見を取り入れられるように取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,850	3,850	3,080	770	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、仕様書に基づき必要な費用を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・用途については、仕様書のとおり実施されているので妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① はえばりサイクルループ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(2)-ア	
	担当部課名	総務部 住民環境課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進
事業内容		町内で発生する食品廃棄物を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥を生産する。また生産された飼料で養豚を育て販売し、食品廃棄物の循環を構築する。					Ⅲ-10-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	14,905	14,639	14,200	13,695	14,210
	(b) 予算現額	14,905	14,639	14,200	13,695	13,021	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 1,189	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	14,905	14,639	14,200	13,695	13,021	
	B. 執行済額	14,905	14,639	14,150	13,695	13,021	
	うち交付金充当額	11,924	11,711	11,320	10,956	10,416	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		食品廃棄物の循環構築業務を委託し、事業計画のとおり執行することができた。					
活動目標(指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	町内で排出される食品廃棄物を回収、分別し、飼料や肥料を生産することで、循環構築をはかり、生ごみ(家庭系)の年間資源化の増を目指す。	目標	(80 ^ト)	(45 ^ト)	(30 ^ト)	(30 ^ト)	
		実績	27 ^ト	27 ^ト	30 ^ト	29 ^ト	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	目標の30トンには届かなかったが、ほぼ目標に近い量の資源化を行った。						
成果目標(指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
			()	(45 ^ト)	(30 ^ト)	(30 ^ト)	()
	生ごみ(家庭系)の年間資源化量:30トン	目標	()	(45 ^ト)	(30 ^ト)	(30 ^ト)	()
		実績		27 ^ト	30 ^ト	29 ^ト	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	目標の30トンには届かなかったが、ほぼ目標に近い量の資源化を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・昨年度県内において豚熱(CSF)が発生した事からより一層の飼料衛生管理基準の遵守、豚舎の衛生管理の徹底が求められている。</p>	<p>・豚熱(CSF)発生の影響から豚舎の消毒や豚へのワクチン接種等、これまで実施してこなかった作業も行う必要があるため、人員配置等を再度見直す必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・生ごみ資源化量の増加のみだけではなく、豚熱(CSF)を発生させない取り組みも行いながら事業継続に取り組んでいく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	13,021	13,021	10,416	2,605	0
<pre> graph LR A[南風原町 13,021千円] --> B[委託費 13,021千円] B --> C[NPO法人のぞみの里 13,021千円] </pre> <p>(はえばりサイクルループ事業にかかる委託事業)</p>					

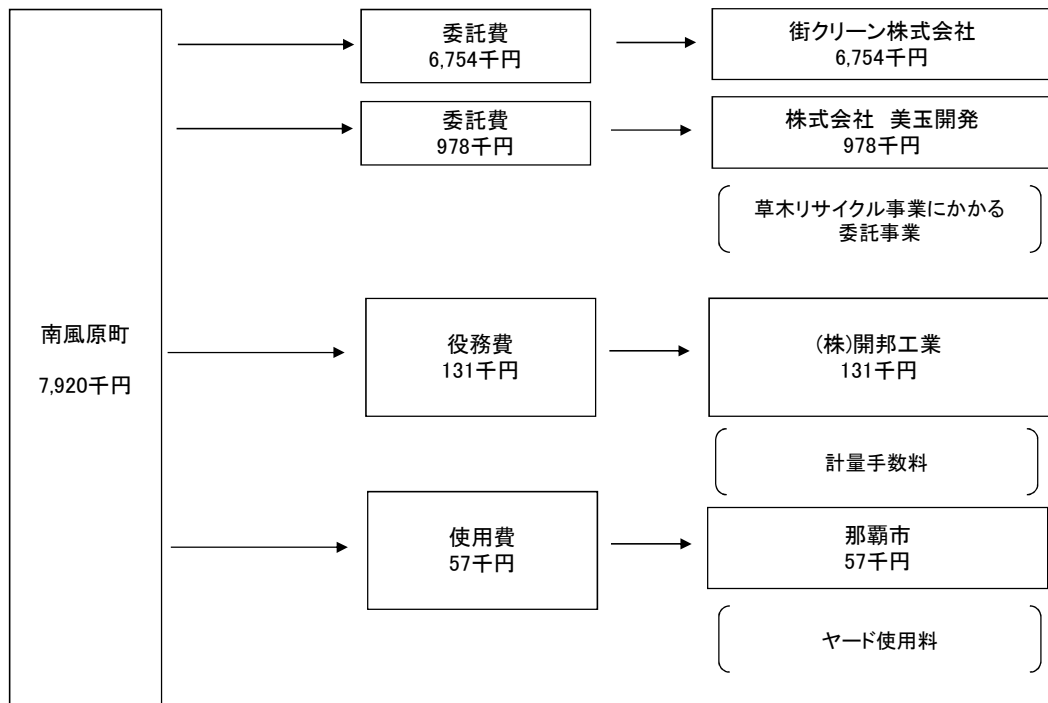
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○本事業は町内における食品廃棄物の循環構築を目的としており、町内に対応できる事業者が1事業者であるため地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約であり妥当である。</p> <p>○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。</p> <p>○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-② 草木リサイクル事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
	担当部課名	総務部 住民環境課		事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所
事業内容		草木廃棄物を利用した「循環のシステム」を構築するため、町内家庭から出る草木を堆肥化し、活用する。				
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	6,770	6,832	6,325	7,215
	(b) 予算現額	7,670	6,512	6,325	7,215	8,478
	(c) 増減額(b-a)	900	▲ 320	0	0	1,970
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)	7,670	6,512	6,325	7,215	8,478
	B. 執行済額	7,158	6,087	5,548	6,697	7,920
	うち交付金充当額	5,726	4,869	4,438	5,357	6,335
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	93.3%	93.5%	87.7%	92.8%	93.4%
予算の状況の説明	ほぼ計画通りの執行ができた。なお、不用額については草木見込み量の増減によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	町内から排出される草木を堆肥化することで、リサイクル量の増を図る。	目標	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクル量の増をはかる)
		実績	減	増	増	増
	目標	()	()	()	()	
実績						
達成状況説明	町内の各家庭、地域の清掃活動から排出された草木を収集し、477トン堆肥化することができた。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
		目標	()	(436トン)	(455トン)	(472トン)
	実績		407トン	451トン	477トン	
	目標	()	()	()	(45トン)	()
	実績				44トン	
進捗状況説明	家庭系草木は目標の472トンより5トン多い477トンを収集し、堆肥化することができた。町内一斉清掃草木についてもほぼ目標通り量をリサイクルできた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・令和元年10月より地域の清掃活動から排出される草木もリサイクルの対象としたことから処理量が増加しているが問題等は特にない。</p>	<p>・作業員による収集時や個人による自己搬入時の分別を徹底させることで、堆肥化までの作業効率を推進する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き収集時に収集員が草木に異物の混入がないか確実にチェックを行うとともに、草木の自己搬入についても異物混入がないよう受入作業担当者と連携して取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

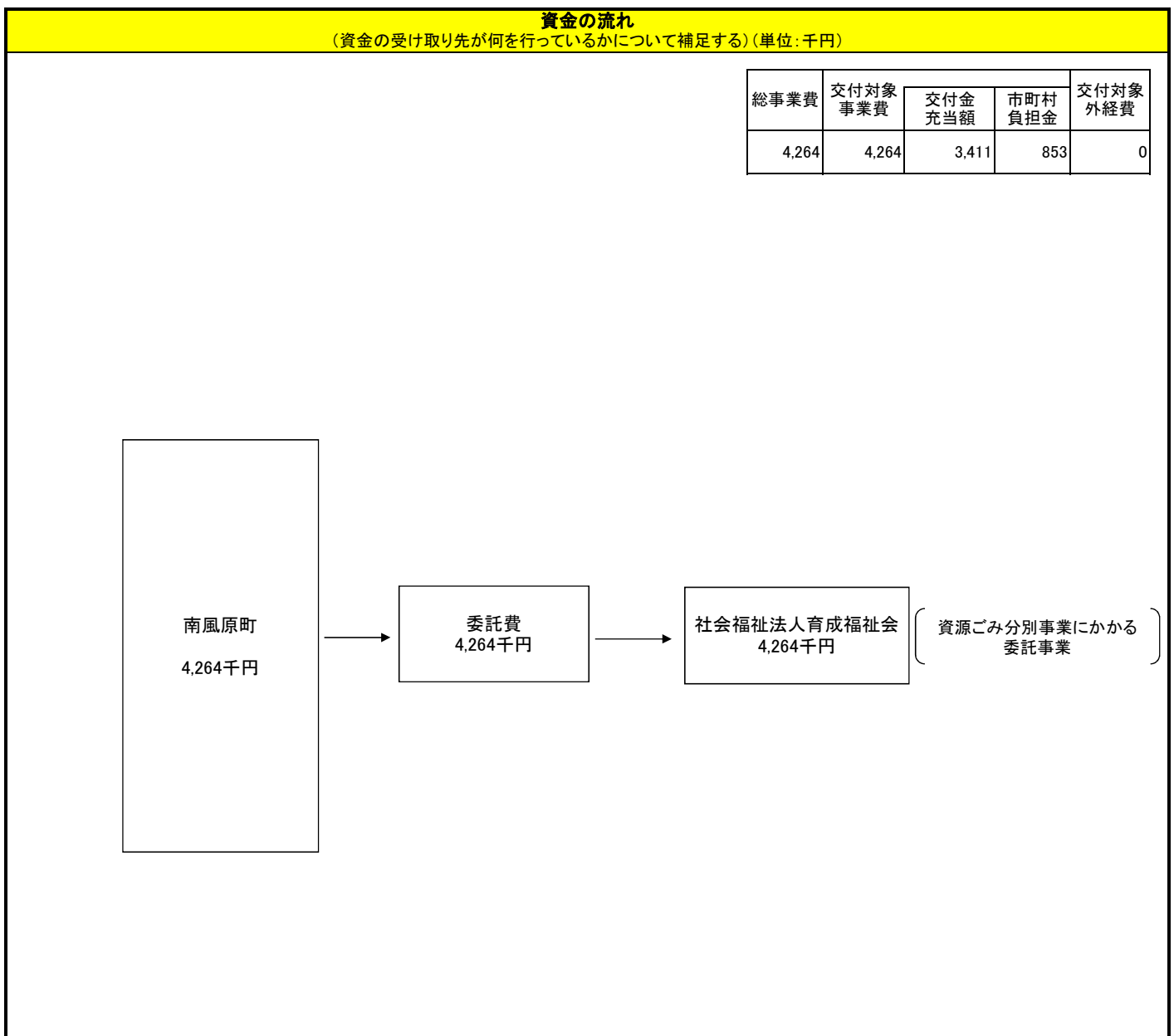
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,920	7,920	6,335	1,585	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○南風原町近郊で家庭から排出された草木を堆肥にリサイクルできる委託先がー社しかないため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。</p> <p>○予算執行率は草木の搬入量の範囲内で適正な量であったため予算規模も適正であった。</p> <p>○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 環境保全3R推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
	担当部課名	総務部 住民環境課		事業実施(予定)年度	令和元~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進
事業内容		本町の一般世帯から回収された資源ごみの分別作業を実施しリサイクルすることで環境負荷の少ない循環型社会を形成する。					Ⅲ-10-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		(a) 当初予算額	4,265				
	(b) 予算現額	4,265					
	(c) 増減額(b-a)	0					
	(d) 繰越額	-					
	A. 計(b+d)	4,265					
	B. 執行済額	4,264					
	うち交付金充当額	3,411					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明		事業計画どおりの執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	町内から排出される資源ごみを分別しリサイクル量の増加をはかる。	目標	(リサイクル量の増をはかる)	()	()	()	
		実績	増				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	目標の284トンを大きく上回る329トンを分別することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	資源ごみ(古紙、アルミ、スチール、ビン、ペットボトル、古着)の収集分別量284トン	目標	()	(284トン)	()	()	()
		実績		329トン			
	廃食油の収集分別量 9,720リットル	目標	()	(9,720リットル)	()	()	()
		実績		9,640リットル			
	進捗状況説明	資源ごみは目標の284トンを大きく上回る329トンを分別することができた。廃食油は目標のには届かなかったがほぼ目標とおりの量を分別することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭より排出される資源ごみの量が増加していることから、分別作業において異物混入がないかチェックする体制を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組めるよう分別体制の強化に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・更なるリサイクル量の増加を図るために分別作業を行う人員を増やすことを検討する。 		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○本事業は町内における資源ごみを分別しリサイクルすることで環境負荷の少ない循環型社会を形成することを目標としており本町障がい者優先調達推進方針及び地方自治法施行令第167条の2第1項第3号による随意契約であり妥当である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町											
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	4-① 災害時等避難施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ								
担当部課名	総務部 総務課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)						
事業内容	災害時における地域住民の安全を確保するため、バリアフリー化等、避難所の整備を支援する。												
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度)												
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()												
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
		(a)当初予算額	-		5,000		2,500		2,500		1,250		
		(b)予算現額	-		5,000		2,500		2,500		1,250		
		(c)増減額(b-a)	-		0		0		0		0		
		(d)繰越額	-		-		-		-		-		
		A.計(b+d)	-		5,000		2,500		2,500		1,250		
	B.執行済額		-		5,000		2,500		1,512		1,176		
	うち交付金充当額		-		4,000		2,000		1,209		940		
	次年度繰越額		-		0		0		0		0		
	執行率(%) (B/A)		-		100.0%		100.0%		60.5%		94.1%		
予算の状況の説明		計画どおり1箇所の整備を行った。事業費についてもほぼ計画どおりの執行により執行率は94%となった。											
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況										
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度				
	災害時避難施設の内外部の補修及び機能強化工事(補助:1件)		目標	(2箇所)		(1箇所)		(1件)		(1件)			
			実績	1箇所		1箇所		1件		1件			
			目標	()		()		()		()			
		実績											
達成状況説明	目標としていた機能強化工事への補助1箇所を実施した。玄関およびトイレのバリアフリー化を実施し、災害時避難施設の機能強化を行った。												
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)		R1年度		H30年度		R1年度		目標値(年度)		
	避難所整備の完了		目標	()		(整備の完了)		()		()		()	
			実績			整備の完了							
	整備された避難所を活用した避難訓練の実施(年1回)により、本事業を検証する。		目標	()		(1回)		()		()		()	
			実績			1回							
進捗状況説明	令和1年度は避難所整備1件完了し令和1年度の目標を達成した。令和3年度までに11箇所の整備を予定しており、令和1年度末時点で9か所の整備が完了し残り2箇所となった。また、平成30年度までに整備された8箇所において防災訓練を1回実施した。 【実績】H24年度実績:1件(5%)、H25年度実績:2件(15%)、H26年度実績:2件(26%)、H28年度実績:1件(31%)、H29年度実績:1件(36%)、H30年度実績:1件(42%)												

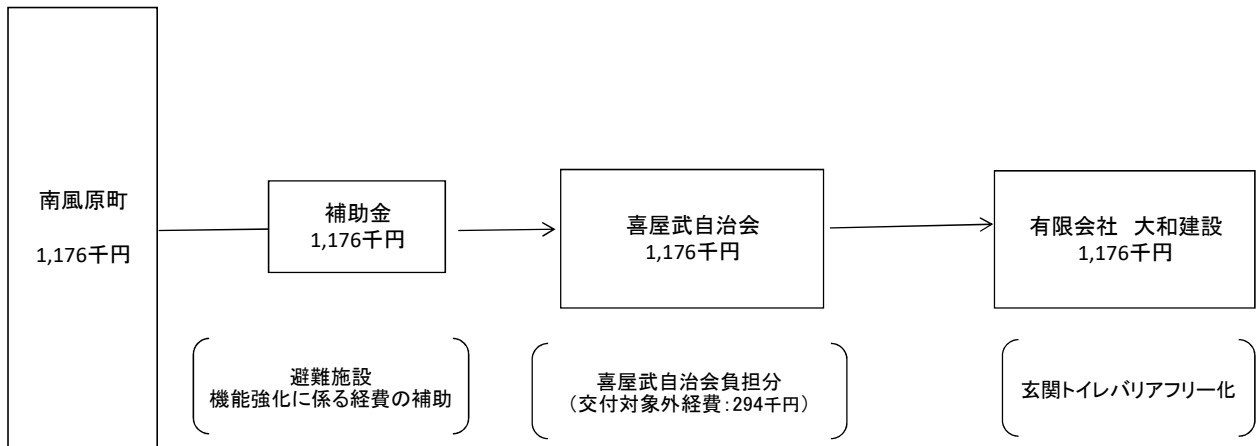
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した自治会においても自治会内での協議に半年以上の時間を要し当初計画のスケジュールどおりに事業が進まず、年度末の完成となった。 理由としては、防災意識の高まり等の理由で事業規模が増大し予算内に収まらず自治会内での協議が長期間に及ぶ事となった。 ・これまで整備された全避難所において避難訓練を実施し、町民の防災に対する意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から工事業者から見積もりを徴取し事業規模を意識した協議となる様に指導していく必要がある。 また、自治会長や自治会役員が替わると、事業内容や規模についての議論がスムーズに進まなくなるケースが多い事から早期に事業内容が決まるように自治会との調整を行っていく必要がある。 ・災害はいつ発生するか予測できないため、今後も毎年継続して避難訓練を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・工事業者からの見積もりを早い段階で徴取し、自治会での議論が膨らみすぎ無いように積極的にアプローチをかけていく。
- また、令和3年度に事業を予定している自治会についても、議論の進め方をレクチャーし事業がスムーズに進むように取り組んでいく。
- ・多くの住民が避難訓練に参加できるよう、住民が参加しやすい日時(各字・自治会の行事とあわせる等)を検討し避難訓練を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,470	1,176	940	236	294



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町災害時等避難施設改修事業補助金交付要綱に基づき支出していることから妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○全て避難施設の機能強化に関する費用となっており予算規模は妥当であったと判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である喜屋武自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		南風原町									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	5-① 放課後児童の居場所づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-1						
	担当部課名	民生部 子ども課	事業実施(予定)年度		平成24~令和3年度	地域における子育て支援の充実					
事業内容	本町の民間の賃貸住宅等を利用している学童クラブに対して家賃の補助を実施する。また、学童クラブが生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者に対し利用料を減免した場合の補助を実施することで、安心・安全に子供を預けることができ、保護者の子育てへの負担感を軽減する。										
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)									
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
		(a) 当初予算額	7,530	8,010	8,160	9,468	10,068				
		(b) 予算現額	6,506	7,046	7,996	10,209	10,190				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,024	▲ 964	▲ 164	741	122				
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-				
	A. 計(b+d)		6,506	7,046	7,996	10,209	10,190				
	B. 執行済額		6,108	6,761	7,568	9,798	10,075				
	うち交付金充当額		4,886	5,408	6,054	7,838	8,060				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率(%) (B/A)		93.9%	96.0%	94.6%	96.0%	98.9%				
予算の状況の説明		1クラブにおいて引越しによる家賃の増額があったため、流用により対応をした。実績確認をした際に、途中退所や減免対象外になっていたケースがあり、実績で115千円の不用額が発生した。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
	(1)家賃補助 基準値(R1):9ヶ所	目標	(7件)	(7件)	(9件)	(9件)					
		実績	7件	7件	9件	9件					
	(2)生活保護世帯及びひとり親家庭等学童クラブ利用支援補助 基準値(R1):91人分	目標	(-)	(82人)	(79人)	(91人)					
		実績	-	73人	95人	103人					
達成状況説明	賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている9学童クラブに対して、負担軽減のため1ヶ月50,000円を上限で家賃補助を実施した。学童保育料の減免に対する支援については、昨年度より多くの減免対象者を支援することができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)				
	安心・安全に子供を預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%)	(80%)	()				
		実績			80%	98%					
		目標	()	()	()	()	()				
		実績									
進捗状況説明	学童保育料の減免を行うことで、ひとり親家庭や生活保護世帯が学童クラブに児童を預けやすくなった。その結果、安心・安全に子供達を預けることができ、保護者アンケートにおいて子育てへの負担感が軽減されたと答えた割合が目標の80%を大幅に上回り98%となった。										

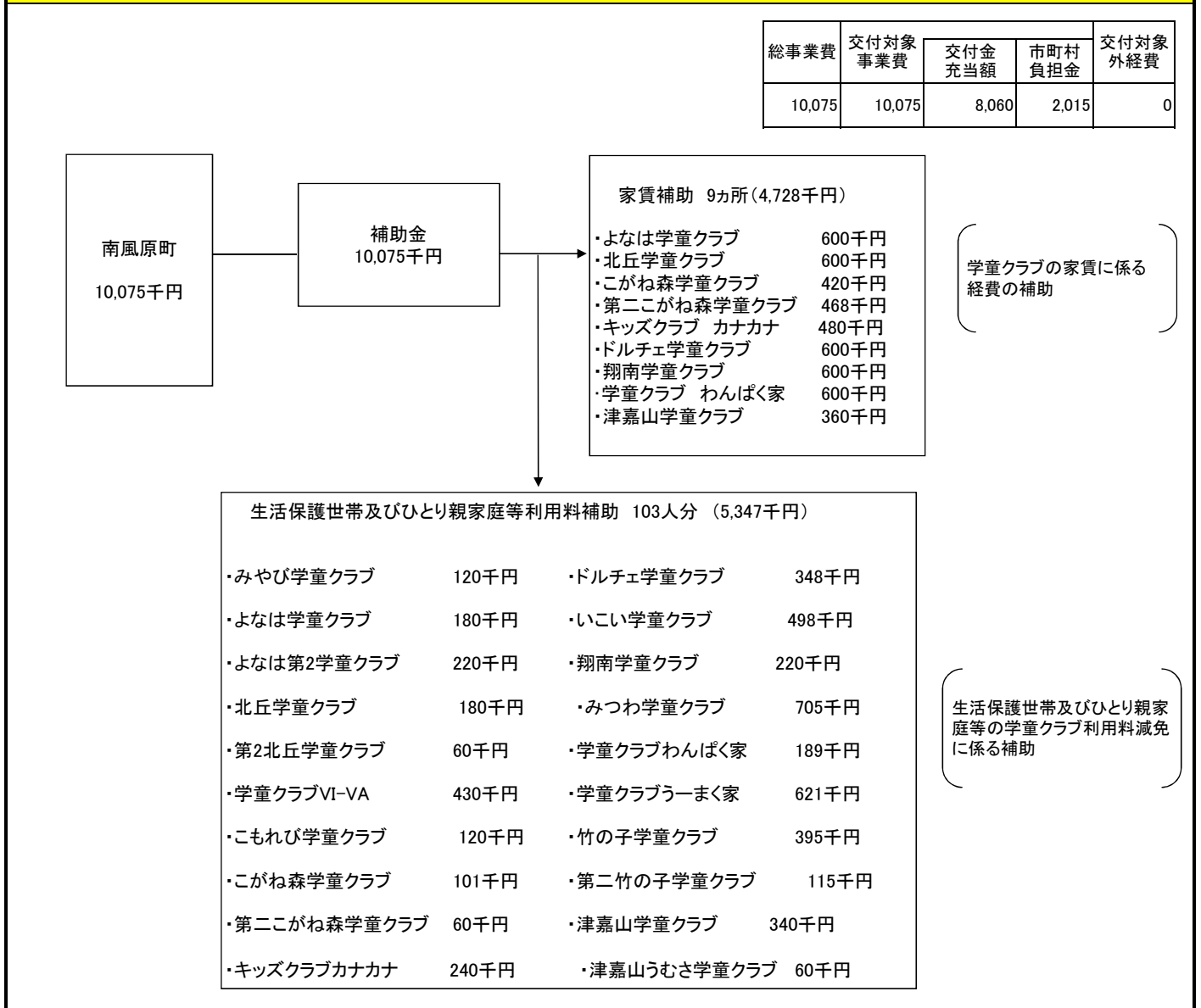
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・学童を利用する登録児童数も増加傾向にあることから、比例してひとり親家庭や生活保護世帯の学童利用者数にも増加が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学童利用者数が増加していることから、新規利用者への本事業の周知活動を行い、申請漏れがないように取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・今後もパンフレットやHP等を活用して、ひとり親世帯及び生活保護世帯への利用料減免の周知を徹底し、学童利用のニーズが高まる中で、よりいっそう保護者が安全安心に学童を利用できるように保護者の負担軽減に向けて取り組んでいく。

・今回のアンケートにおいて、保護者の負担感が軽減されたとの回答が98%と高い値を示したことから、引き続き同質問に対するの回答目標を高くもつとともに、アンケート内容の見直しを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績等を勘案した上で補助事業者(学童クラブ)を決定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額を支出し、妥当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の上限を超える金額はクラブ負担であり、妥当で合ったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なもののか等について額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	南風原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-② 認可外保育園支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第3章-2-(2)-1 地域における子育て支援の充実					
担当部課名	民生部 子ども課	事業実施(予定)年度 令和1~3年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 III-4					
事業内容	認可外保育園の保育の充実、児童の福祉向上を図るため、本町の児童が通っている町内認可外保育施設に対して、運営費補助歯科検診補助、傷害保険補助を行う。また、町外認可外保育施設に通う児童の保護者に対して保育料軽減を目的として保護者に助成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2	R3	R4	R5	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,356				
			2,356				
			0				
			0				
			2,356				
		B. 執行済額	2,131				
		うち交付金充当額	1,704				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	90.4%				
	予算の状況の説明	(1)運営費補助は当初延べ人数1,140人で予定していたところ結果1,152人で12人増の18千円増が発生した。歯科検診補助は190人で予定していたところ結果69人利用で121人減の約91千円不用額が発生した。傷害保険補助は190人で予定していたところ結果利用は38人で152人減で約122千円の不用額が発生した。(2)認可外保育助成金は延べ人数234人で予定していたところ結果214人利用で20人減の約30千円の不用額が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(1) 認可外保育園への補助 1.運営費補助 2.傷害保険補助 3.歯科検診補助	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	(2) 町外認可外保育園に通う町内在住者の児童の保護者への補助 1.町外認可外保育児童助成	目標	(実施)	()	()	()	
実績		実施					
達成状況説明	・町内認可外保育施設5カ所に運営費1人あたり月1,500円補助、2カ所に歯科検診費1人あたり750円補助、1施設に傷害保険費1人あたり800円補助を実施した。 ・町外認可外保育施設に通う児童の保護者36人に1人あたり月1,500円の助成を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・園児の保護者に対し保育の質が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80)	()	()	()
		実績		88%			
	・園児の保護者に対し、助成により保護者負担が軽減されたか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80)	()	()	()
		実績		86%			
進捗状況説明	町内認可外保育施設への補助や町外認可外保育施設へ児童を預けている保護者への助成金を行う事で、保育施設の安定的な運営と質の向上になったとの評価を受けた。						

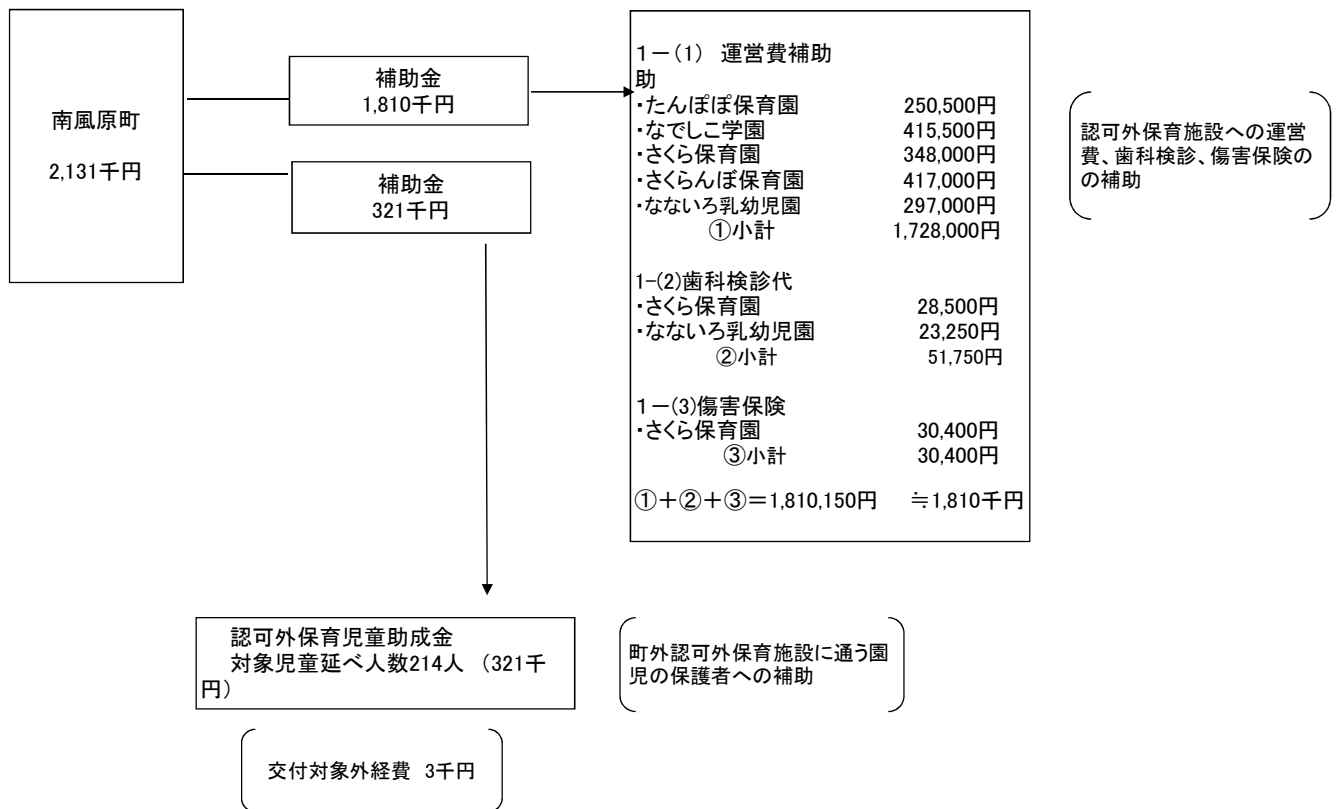
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・町内認可外保育施設へは直接施設に周知を行っている事と、町外認可外保育施設に対しては町広報誌やホームページを利用して保護者に広く呼びかけた事で、利用促進につながった。一方で歯科検診を実施していない施設や傷害保険に加入していない施設があり補助出来ないケースがあった。</p>	<p>・歯科検診の未実施施設や傷害保険の未加入施設に対し本事業の利用を促し、検診の実施と傷害保険の加入を促し、児童と保護者の安心安全に繋げる。</p>

今後の取り組み方針

・認可外保育施設や保護者へ直接又はホームページ等を活用して本事業の周知に努め、本事業の利用促進を図る。また、アンケートの結果を検証し、保育施設の質の向上と児童の処遇向上に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,134	2,131	1,704	427	3



資金の流、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○要綱に基づいての決定しており、妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な金額を支出し、妥当な額であるとする。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○上限を超える金額は施設又は保護者の負担になるので妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時の支出等に関する書類により確認し適正であった。

市町村名		南風原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 陸軍病院壕公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア		
	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
担当部課名					III-3-(2)		
事業内容	沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を行うとともに、整備・公開している20号壕を訪れる見学者へのガイド案内を実施することで南風原町の歴史継承及び観光の誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	6,515	6,705	6,766	6,992	7,042
	(b) 予算現額	5,039	4,631	6,766	6,992	7,042	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,476	▲ 2,074	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	5,039	4,631	6,766	6,992	7,042	
	B. 執行済額	5,039	4,631	4,822	5,515	5,159	
	うち交付金充当額	4,031	3,704	3,857	4,412	4,127	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	71.3%	78.9%	73.3%	
予算の状況の説明	不用額1,883千円は、新型コロナウイルスの影響により団体見学をはじめとする来壕者が減少したことによる南風原町観光協会への委託費630千円の減、変位等観測業務委託34千円の減、嘱託職員報酬のうち1,219千円を交付対象外経費にしたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	開壕日数:309日	目標	(308日)	(308日)	(313日)	(309日)	
		実績	308日	308日	309日	307日	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	見学者の要望を確認し、通常定休日(水曜日)として設定している日も開壕して目標達成に取り組んだが、台風接近による臨時休館などにより、目標値である309日に届かなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	(9,804人)	(11,500人)	(11,500)	(11,500)	()
	見学者数11,500人	実績		8,801人	9,338	9,028	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		令和元年度は壕を開壕した全ての日を見学者が訪れている。しかし、2月の後半~3月頃より新型コロナウイルスの影響でほとんどの団体旅行がキャンセルとなった。個人旅行と見られる見学予約のキャンセルも多く生じたが、年度内の臨時休館を行わなかった結果、飛び込みの個人見学者も多く見られた。10月頃の時点では、前年度を越す見学者数が見込まれたが、その後多くの団体旅行のキャンセルが生じたため前年度を下回る見学者数となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で2月の後半～3月にかけての団体予約ほぼ全てがキャンセルとなった。 一般公開を行っている20号壕の壕内の見学には3密(密閉・密集・密接)が伴っているが、20号壕は細粒砂岩・泥岩の地質に構築された壕であり、この地質は、乾湿を繰り返すことで風化が進行する恐れがあるため、壕内の換気は容易ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学者およびガイドの安全第一を念頭に置いた感染症対策と指定文化財でもある壕の保存のバランスを検討する必要がある。 20号壕内の一般公開の再開を早急に判断にすることは難しいため、屋外で見ることが出来る、沖縄陸軍病院南風原壕群に関連する文化財の活用を進める。

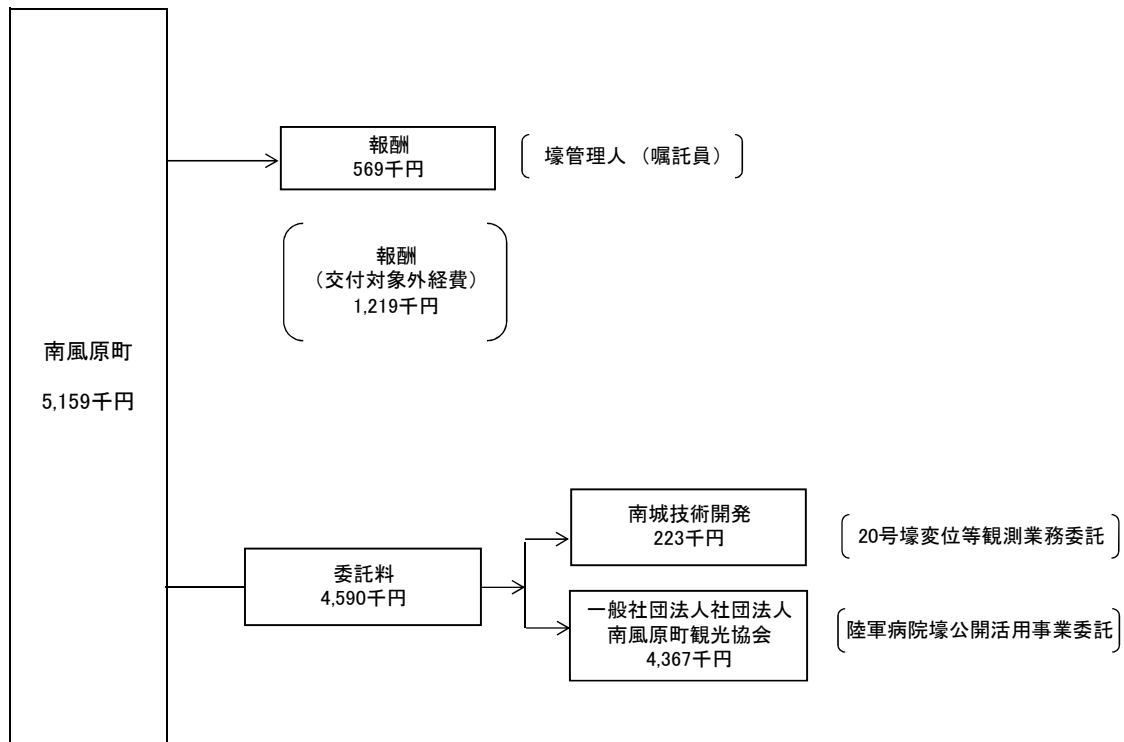
今後の取り組み方針

・感染症対策と壕の保存・公開に関することは、南風原町文化財保護委員会、壕内の変位等観測業務の受注業者などと検討を進める予定である。適切な換気方法や換気時間の検討のほか、そもそも風化を促進する換気に限らない、壕内の空間消毒など幅広い感染症対策の検討を進めたい。

・令和2年6月より黄金森一帯の地表面で見られる病院壕群関連文化財の活用に向けたガイド研修を行う予定である。研修を通して、より良いガイドの方法や見学の受け入れ体制の検討も行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,378	5,159	4,127	1,032	1,219



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託について、町の観光資源を活用する組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託を行っており、妥当だと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○見学者数が目標を下回ったため不要額が生じているが、予算規模そのものは事業内容に見合った適正なものと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途について、事業目的の観点から必要なものか、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	6-② 子ども平和学習交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成 Ⅲ-3-(2)
事業内容	小学6年生を対象に、戦争と平和、差別や人権等について事前研修や県外研修を実施し、施設見学、現地の人の交流を通して平和について広く学習する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	2,729	1,969	1,385	1,428
	(b)予算現額	2,970	1,659	1,084	1,052	1,120
	(c)増減額(b-a)	241	▲310	▲301	▲376	0
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	2,970	1,659	1,084	1,052	1,120
	B.執行済額	2,882	1,639	946	980	906
	うち交付金充当額	2,305	1,311	756	783	724
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	97.0%	98.8%	87.3%	93.2%	80.9%
予算の状況の説明		予算執行率の低い要因は、航空運賃割引等による旅費の減によるものである。計画していた事業内容はすべて実施できたことから活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	子ども平和学習交流事業参加者数(8人)	目標	(12人)	(8人)	(8人)	(8人)
		実績	12人	8人	8人	8人
事前学習、本研修の後その報告会を開催	目標	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	
	実績	報告会を実施	報告会を実施	報告会を実施	報告会を実施	
達成状況説明	令和元年度も各小学校から6年生計8人を推薦してもらい、予定通り事前学習と本研修を終えることができた。また、研修終了後には役割分担をして、本研修の報告会を開催。それぞれ学習したことの感想や意見を加えて発表する大切な機会になった。さらに報告書原稿をまとめるため、事前学習から本研修までの取り組みを整理する必要があり、学習のまとめを最終的に報告書として出版した。今年は報告書を手作りし、一緒に作業を行いながら中学生になる前の顔合わせ会となり、新たな交流の場にもなった。最初の顔合わせ会から報告書作成まで、およそ9ヶ月に及ぶ関わりの事業で、中学入学後の活動としてOBたちへの繋がりを作っていくことも平和学習の効果につながり、交流を広げている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		参加児童の平和等に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	()	(80%以上)	(80%以上)	()
	実績		88%	100%		
	目標	()	()	()	()	()
実績						
進捗状況説明	保護者からのアンケートには「これまであまり気にしていなかったニュース(紛争問題など)に対して興味を示すようになり、原因や対応について立場のちがいによる感じ方考え方が異なる、ということを感じ始めた感がある。」「グループでの学習を通して、自分の意見だけでなく、他人の意見を多面から捉えて物事を考えるようになった。」「歴史の中にある事実についてふだんの生活では感じられない、あまり考えようとしなかった部分に目を向ける良いきっかけとなった。特に戦争という手法で、問題解決を図ろうとすると、生活しているものが苦しみを背負ってしまうと言うことを伝え続けて欲しい。」など、保護者からの関心の高さも伺えた。					

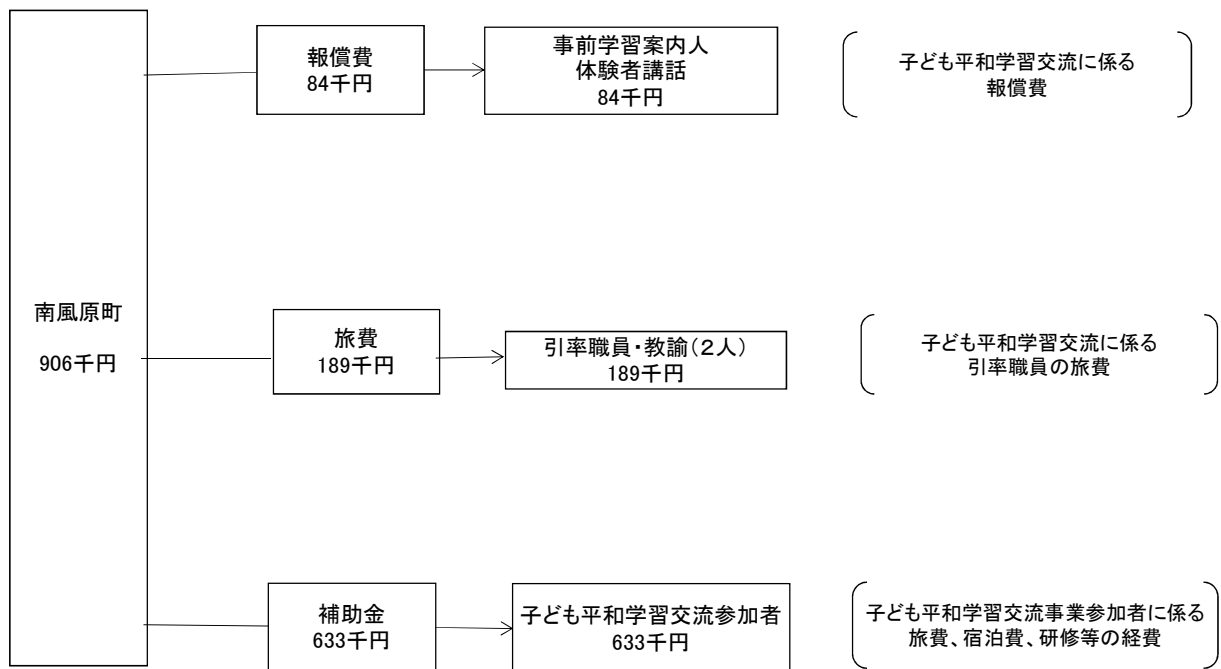
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート等の結果から本事業の効果発現を確認することが出来た。	・本事業を更により良いものにしていくために、参加児童の「気づき」や「理解」を促すよう取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・研修時には参加児童に対し発言を促し、常に考え議論できる学習環境を作り、参加児童の平和学習に対する理解促進に努める。また、平和学習において「沖縄戦」の実相を学習することで「人権」や「差別」について考えるきっかけにもなるので、児童と戦争体験者と向かい合う機会を設け、研修内容の充実を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
906	906	724	182	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。参加者(補助金)の選定は学校長推薦により行い適正であった。 ○事業達成に必要な金額を支出し妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、南風原町子ども平和学習交流事業実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	7-① 長寿県復活食の応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
	担当部課名	民生部 保健福祉課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4
事業内容	将来の生活習慣病の予防に向け、町内の小学校5年生及び中学校2年生を対象に生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	5,558	7,068	4,022	3,363
	(b)予算現額	5,558	4,502	2,300	2,184	3,216
	(c)増減額(b-a)	0	▲2,566	▲1,722	▲1,179	▲222
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	5,558	4,502	2,300	2,184	3,216
	B.執行済額	5,109	4,501	2,224	2,144	3,167
	うち交付金充当額	4,086	3,600	1,779	1,714	2,533
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	91.9%	100.0%	96.7%	98.2%	98.5%
予算の状況の説明	学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、補正により222千円の予算減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学童期における生活習慣病予防健診の実施(対象者:町内の小学5年生及び中学2年生)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)
		実績	実施	実施	実施	実施
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	学童期における生活習慣病予防健診を小学5年生280人、中学2年生183人に実施することができた。また、生活習慣病健診後は健診結果説明会を開催した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		将来の生活習慣病予防に向けた、食生活や生活習慣を理解できたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業の在り方を検証する。	()	(80%)	(80%)	(80%)
			76%	98.5%	96.3%	
		目標	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	将来の生活習慣病予防に向けた食生活や生活習慣を理解できた割合については、生活習慣病予防健診を受診された児童・生徒とその保護者に対して、アンケート調査を実施した。アンケートを回収できた300人(保護者189人児童111人)の回答を集計した結果、「理解できた」割合は96.3%(保護者・児童計)であった。					

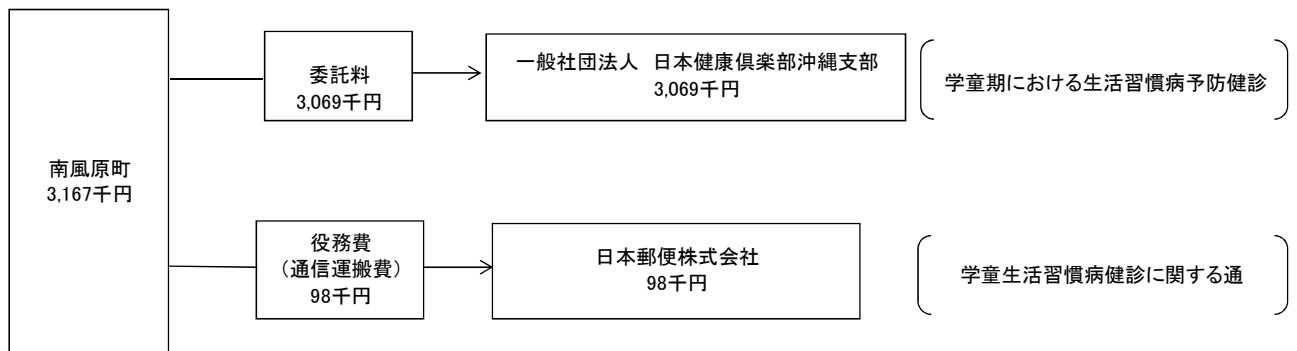
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・目標が達成できた要因として、健診結果説明会で一般的な生活習慣や食習慣改善の講話のみでなく、自分の子どもの健診結果と照らし合わせながら学習させる内容にしたことで、生活習慣病予防に対する意識を高められたことが考えられる。今後も参加者の理解割合を維持していくことが必要と考える。</p>	<p>①最新の知見をベースに、小学生や中学生または保護者世代の生活実態に合わせた健診結果説明会の内容にすることで食習慣等の振り返りがイメージしやすいように事業の組み立てを行う必要がある</p> <p>②継続受診率の向上を目指し、健診結果説明会の中でも継続受診の意味を伝えていけるよう事業の組み立てを行う。</p>

今後の取り組み方針

・今般の情勢を踏まえ新型コロナウイルス感染予防に配慮して生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を開催していく。生活習慣病健診後の健診結果説明会では内容として、小学生や中学生または保護者世代の生活実態に合わせて実施することで、食習慣等の振り返りがイメージ(教材等)しやすいように事業の組み立てを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,167	3,167	2,533	634	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業にあたっては業者調査を実施。委託事業の要件に見合う業者が1ヶ所のみであったため、南風原町契約規則に基づき随意契約を行った。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途について精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	